



FUJI OIL CSR REPORT 2012

二つとない、をつくる。

 不二製油

二つとない、をつくる。 不二製油

『二つとない、をつくる。』それは、社名の「不二」から生まれた言葉。

私たち不二製油が2010年10月9日、創業60周年にしてはじめて掲げたコーポレートメッセージです。

油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白の事業領域において、

私たちはつねに「人マネをしない」という創業の精神を大切に、お客様と共に製品開発に挑んできました。

二つとない技術・経験・発想の先に、二つとない製品や提案が生まれ、

さらにその先に、お客様との感動、笑顔、喜びが広がっていく。

そんな不二製油のあり方を凝縮したのが、『二つとない、をつくる。』というメッセージ。

これまで60年にわたって築いてきた技術と製品に対する自負。

そして、これから先も、二つとない製品を通じて、皆さまのお役に立っていきたい、という決意。

二つの思いを、この言葉にこめました。

それは、社員ひとりひとりの志をあらわすと同時に、不二製油が企業として社会と交わす約束の言葉でもあるのです。

写真:チョコレート用油脂

油脂の分別・硬化、エステル交換などさまざまな技術により、チョコレートを季節、用途に応じてあらゆる場面で美味しく利用できるチョコレート油脂を提供しています。板チョコからパン・ドーナツ、アイスクリーム用コーティングチョコレートなどさまざまな場面でチョコレートの利用範囲を広げてきました。

INDEX

04 不二製油グループの概要

06 不二製油グループ製品マップ

08 トップメッセージ

特集01 グローバル経営の推進

10 東南アジア地域統括会社を新設
シナジーの創出による新たな企業価値の創造を

12 グループ会社ダイアログ
グループで連携し、東南アジアで
高い品質とサービスを提供します

特集02 海外におけるサステナブル経営の推進

14 ASEANでナンバーワンの
業務用チョコレートメーカーを目指して

16 カカオ農園視察
おいしさと安全・安心をお届けするために

特集03 「二つとない」を支える研究開発

18 事業化を目指した研究へ
生まれ変わるフードサイエンス研究所

20 不二製油グループのCSR

26 「食の創造」に関する取り組み
お客様への責任

32 「人材・人権」に関する取り組み
従業員への責任

36 「環境」に関する取り組み
環境への取り組み

40 「CSR基盤」に関する取り組み
CSR基盤の充実

44 「社会貢献」に関する取り組み

46 第三者意見

47 「不二製油CSRレポート2011」
アンケート集計結果

編集方針

不二製油グループでは、当社のCSRに対する取り組みを深くご理解いただくため、CSRレポートを毎年発行しています。
本年度は、東南アジア統括会社設立による新たな企業価値の創造、成長著しいインドネシア市場における企業の責任、カカオ農園との取り組み、「二つとない」を支える研究開発をクローズアップし、特集ページで詳しく紹介しています。
活動報告ページでは、CSR活動計画に対する取り組み状況の可視化を目指し、活動実績を中心に掲載しています。また、各分掌役員がコミットメントすることで、目指す姿を明確に示しています。

対象期間

2011年度（2011年4月1日～2012年3月31日）の実績です。活動や取り組み内容は一部に過去および直近のものも含まれます。

対象範囲

不二製油（株）単体の活動を中心に掲載しています。環境データについては、国内グループ会社（生産拠点）のトーラク（株）、フジフレッシュフーズ（株）、（株）エフアンドエフを含みます。
上記以外を対象とする場合は、データとともに集計範囲を記載しています。

発行

2012年9月（次回発行予定は2013年9月）

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」
GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティリポーティングガイドライン第3.1版」

不二製油グループの概要

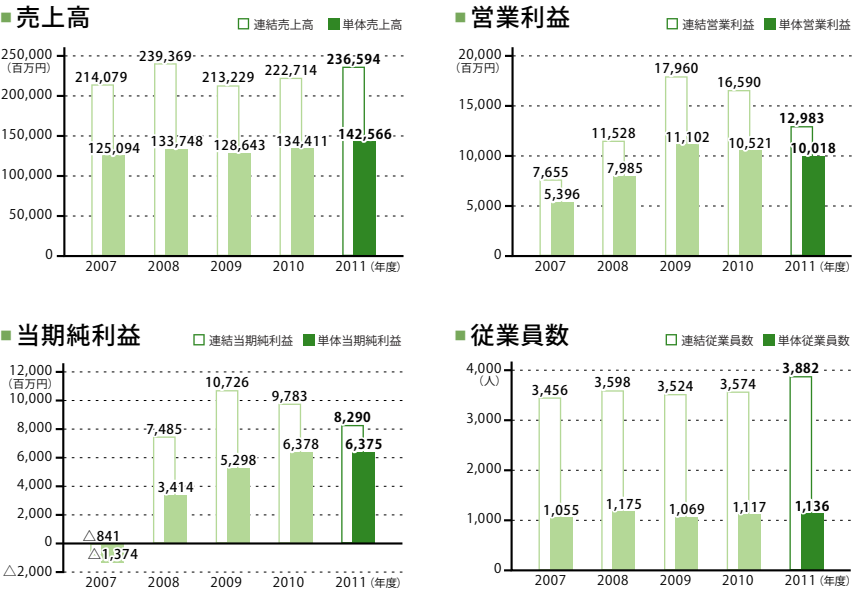
植物性の原料を主原料に、自然の良さを活かしながら自然を超える製品を生み出し、健康とおいしさを実現するための食品素材を開発、生産、販売している不二製油グループ。「油脂加工食品」「大豆たん白加工食品」の二大事業を軸に、ニッチ・スペシャル・グローバルに事業を展開し、多様化する市場ニーズにお応えしています。

会社概要 (2012年3月31日現在)

商号：不二製油株式会社
本社所在地：大阪府泉佐野市住吉町1番地
設立：1950年（昭和25年）10月9日
資本金：13,208百万円

代表者：代表取締役社長 海老原 善隆
従業員数：単体 1,136名 連結 3,882名
子会社・関連会社：連結子会社 29社
持分法適用関連会社 2社

主な経営指標



事業概要

■油脂事業

チョコレートの機能を向上させるチョコレート用油脂や、安定性に優れたフライ用油脂、風味・食感を改良する乳化油脂など、スペシャリティファットを中心に、多彩な油脂製品を展開しています。



■製菓・製パン素材事業

おいしさ・使いやすさを追求し、プロのニーズに応える多彩なチョコレート、独自の乳化・発酵技術を駆使したマーガリン、優れた特長をもつ各種クリーム、本格的な風味を生み出すデザート素材など、製菓・製パンに欠かせないさまざまな製品を提供しています。



■大豆たん白事業

高純度の分離大豆たん白や大豆ペプチド、水溶性大豆多糖類など高機能素材を生み出しています。また、栄養や健康に貢献する幅広い大豆たん白食品を展開しています。豆乳や豆乳ヨーグルトなどの家庭用商品も提供しています。



※油脂事業（パーム事業）と大豆たん白事業の詳細については、不二製油CSRレポート2011の特集記事をご覧ください。

不二製油 主なグループ会社



不二製油グループ製品マップ

—もとをたどれば、不二製油—

不二製油グループの食品素材・製品は食生活のさまざまなシーンで利用いただいています。



油脂

- 1 チョコレート用油脂
カカオバターを超えた機能をもつ
- 2 冷菓用油脂
アイスクリームのおいしさをつくる
- 3 フライ・スプレー用油脂
即席麺、揚げ菓子のフライ、調理用で使用
- 4 クリーム用油脂
ホイップクリーム、コーヒークリームなどに使用
- 5 潤滑・離型油
食品機械の潤滑や食品の離型機能をもつ

チョコレート

- 6 チョコレート
世界各地の厳選されたカカオ豆を使用したチョコレート
- 7 洋生チョコレート
洋菓子やパンにかけ、簡単にツヤを出すチョコレート
- 8 成型チョコレート
生地と一緒に焼いても型が残るチョコレート
- 9 アイスクリーム用コーティングチョコレート
アイス用のコーティングチョコレート

乳化・発酵食品

- 10 ホイップクリーム
豊かな乳風味とスッパリした後味を生み出す植物性クリーム
- 11 ソフトミックス
まろやかな口当たりのソフトクリーム用液状ミックス
- 12 カスタードクリーム
乳味と卵風味が豊かなクリーム
- 13 マーガリン・ショートニング
焼き菓子のサクサクとした食感を引き出す
- 14 発酵風味素材
乳化発酵技術を駆使してつくったデザート用素材

食品素材

- 15 ベジチャメルソース
乳製品を高配合したホワイトソース
- 16 冷凍生地
パイ生地、クッキーシートとして使用

大豆たん白素材

- 17 粉末状大豆たん白
ゲル化力、保水力をもち、食感を改良する特性をもつ
- 18 粒状大豆たん白
ジュシーで肉粒感に富み、保水性に優れた機能をもつ

大豆たん白機能剤

- 19 大豆ペプチド
必須アミノ酸を豊富に含み、吸収性に富む素材
- 20 水溶性大豆多糖類
酸性乳飲料の安定剤や麺・米飯の結着防止剤に使用

大豆たん白食品

- 21 味付け乾燥あげ
即席麺のあげ等々に使用
- 22 がんも
湯通しの手間もいらず、煮くずれしない
- 23 冷凍とうふ
冷凍保存がきき、必要な分だけ利用できる

豆乳

- 24 業務用豆乳
大豆の青臭みを取り除いた豆乳

油脂加工食品

たん白加工食品

家庭用商品

不二製油グループの事業を通して、 食の課題解決に貢献します



東日本大震災を受けて

2011年3月に発生した東日本大震災は、1年半以上経過した現在も尚、原発事故に起因する電力不足など多大な影響をもたらしています。改めて被災された皆様にお見舞い申し上げます。

不二製油では、震災直後、社長を委員長とする災害対策本部を設置、直ちに全社従業員の安否と被災状況の確認に努めました。被害の大きかった関東工場では、食品の安定供給を継続するために、生産の他工場へのシフト、設備の復旧作業を迅速かつ安全に努め、お客様への影響を最小限に抑えることができました。

震災を受け、サプライチェーンマネジメントの見直し、リ

スクマネジメントの強化がより重要性を増しており、今後も引き続き全社を挙げて取り組んでまいります。

中期経営計画への思い

Global & Quality 2013—For Sustainable Growth—の目指す姿

現在推進中の中期経営計画「Global & Quality 2013」はサブスローガンを「サステナブルグロース（持続的成長）」とし、「二つとない技術力、海外力で競争優位を築き、グローバルに持続的な成長を果たす企業グループ」を目指しています。

また、今中計期間は「グローバルに、質的成長に向けての進化の3年間」と位置付け、「世界の競争で勝ち残る規

模と収益、価値の確保」に取り組んでいます。

「質的成長」の意味する「質」とは、日本国内だけでなく世界で通用する品質、技術、サービスであり、お客様満足の維持・向上を図ることを意味しています。

私たち不二製油グループは、中期経営計画の基本方針である「グローバル経営」「技術経営」「サステナブル経営」を推進することで、持続的な成長を可能とする利益の実現、つまり継続的な新しい社会的価値の創造を実現し、全てのステークホルダーの信頼を得て企業価値の向上を図ってまいりたいと考えています。

グローバルに人を活かす

特に不二製油のようなメーカーは、「人と技術」でグローバルに展開しなければなりません。これからは国内だけにとどまらず、新しい技術も素材も海外に移植しなければなりません。人も国内だけでなくグローバルでの行動が求められます。研究開発や販売、製造、スタッフ全ての部門が視野を拡げ、多様な人達とコミュニケーションを取ることが、社員自らの進歩と成長を促します。

2011年より、若手社員が知見を拡げるための海外研修や、海外からはナショナルスタッフが日本で研修を始めています。また、現地のニーズをよりの確に捉えるために

現地幹部の社長への登用も進めています。世界を知る機会、世界の人々と接する機会を増やす施策を、今後より一層進めていきます。

不二製油グループの目指すCSR

世界の食の分野においては、食品の安全確保の問題、先進国での肥満や生活習慣病の増加が社会問題化する一方で発展途上国では食糧不足の問題が顕在化してきています。

また、人口の増加と新興国の旺盛な需要から食糧資源の確保、安定供給が大きな課題となっています。さらに新興国での農地開発に伴う環境問題も大きく社会問題化しており、さまざまな課題が山積しています。

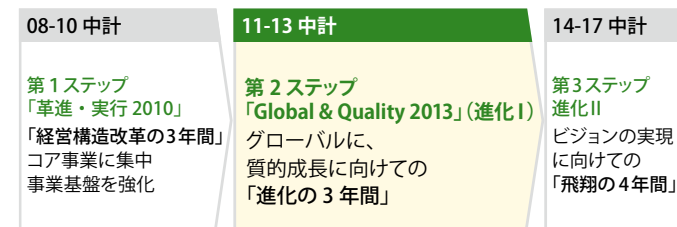
不二製油は資源の有効、効率的な利用につながるサプライチェーンの確立、自然と環境への配慮、そして健康と豊かさを生み出す技術開発力によって、これらの課題解決に取り組んでいます。

不二製油グループのCSRとは、限られた地球資源の中で自然や社会との調和を保ちつつ、食品素材メーカーとして社会に「食を通して『健康』と『豊かさ』」を提供することと認識しています。社会の持続的な成長に向けて、本業を通して食の課題解決に貢献してまいります。

不二製油グループの10年ビジョン

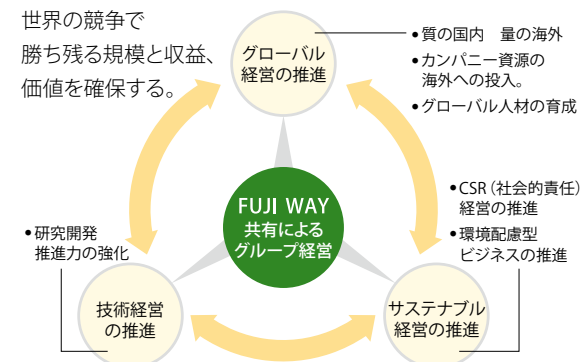
10年後の目指す姿

ニッチ、スペシャル、グローバルに健康と美味しさを提供し、世界のお客様に認めて頂く、食の素材メーカー。



基本方針

世界の競争で
勝ち残る規模と収益、
価値を確保する。





01

特集

グローバル経営の推進

東南アジア地域統括会社を新設 シナジーの創出による 新たな企業価値の創造を

東南アジアは不二製油グループが幅広く事業を展開する世界市場において最も重要な地域です。2012年3月、東南アジアのグループ会社3社を統括する「フジオイル アジア」(FOA)を設立。不二製油初の地域統括会社 (FOA)を起点に、市場や社会への貢献を図り、東南アジアでの事業拡大を目指します。

「もう一つの不二製油をつくる」 東南アジアでも日本と同じ貢献を

FOAが統括の対象とするのは、パーム油とパーム核油製品を生産する「パルマジュ エディブル オイル」(PAL)とスペシリティファットを生産・販売する「フジ オイル (シンガポール)」(FOS)、製菓・製パン素材を生産・販売する「ウッドランド サニーフーズ」(WSF)の3社。

PALの製品をFOSで加工し、WSFへ供給するというサプライチェーンが東南アジアにおける競争力の源泉です。しかし、各社共通のお客様に3社が個別に営業するなど、非効率な面もありました。「FOAが関係の深い3社

を一つにまとめ、販売も含めて効率化を総合的に図ることでシナジーを生み、業績向上につなげたい」とFOA社長の吉田。

日本のビジネスモデルを東南アジアにも展開できれば、日本とのシナジーも一層高まり、東南アジアでの事業体制強化につながる。吉田はその意気込みを「日本と同じレベルでの市場や社会への貢献をこの東南アジアでもやりたいと考えています。つまり、もう一つの不二製油をつくるということです」と語ります。

「東南アジア各社がグループとして連携を強化することで、よりスピーディな判断が可能となります。それも狙いの一つです。」

FOAが担う責任と役割とは

FOAの役割とは、まず各社の利益責任を担い、予算を管理すること。二つ目は、各社の販売やマーケティング、開発の方向性を決定すること。原料調達や購買、資金調達などの財務面も一体となって運営することによりコスト

ダウンと効率化を図ること。そして四つ目は、東南アジア独自の条件を踏まえた戦略の立案や新規事業の創出。「これをシンガポール (FOA)で行うことで、意思決定やその後の動きが迅速になります。特に開発については、お客様とともに課題を解決するスピーディな提案営業の推進も含まれます。」



フジオイル アジア
社長
吉田 友行

創出は、今後FOAが成長していく上で最も重要な課題の一つです。

「新しい発想が現場から自由に出てくるのが大切です。社員には自由にアイデアを出してもらいたい。一人ひとりの良いところを引き出すことで力を伸ばしていきたい。」

吉田は社員を育成し、新規事業の芽が現場から生み出される風土づくりに特に力を入れたいと考えています。また、現地社員をトップへ登用することにより、個々のグループ会社の一体感を高め、ビジネスの機動性を増すことが重要だと考えています。

現地社員の声を生かし、 お客様のニーズに応える

FOAは、“お客様に密着し事業によって社会的責任を果たす”“創造の精神を大切に”“全員が人間として成長していく”という3つの方針を掲げ、ステークホルダーとともに成長することを目指しています。特に新規事業の

広く世界から信頼される企業へ

これまで培ってきた東南アジアでの事業を通じて、不二製油グループの品質には高い信頼感があります。FOAは、これを今後の発展の原動力とし東南アジア事業をさらに強化するとともに、広く世界から信頼される企業を目指していきます。

Data

パルマジュ エディブル オイル (PAL)
所在地: マレーシア
設立: 1985年9月
従業員数: 159人
事業内容: パーム油とパーム核油製品を生産

フジオイル アジア (FOA)
所在地: シンガポール
設立: 2012年3月
従業員数: 19人
事業内容: 新規事業の企画／東南アジア地域の事業促進／統括対象会社への業務支援と域内グループ会社連携の推進

フジオイル (シンガポール) (FOS)
所在地: シンガポール
設立: 1981年10月
従業員数: 133人
事業内容: 東南アジアを中心にスペシリティファットを生産・販売

ウッドランド サニーフーズ (WSF)
所在地: シンガポール
設立: 1988年2月
従業員数: 111人
事業内容: 製菓・製パン用素材をはじめとする各種製品を生産・販売

Voice 現地の声

これからも会社とともに成長していきたい



入社して25年になります。当初は日系企業の文化に戸惑いもありましたが、努力し成果を上げることで評価される制度や新しいことにチャレンジできる風土の中で、自分の能力を高められたと実感しています。現在はマネージャーとして、若手の育成に力を入れています。さらに会社が発展していくためには、日本との情報共有などグループとしての一体感が必要ではないでしょうか。不二製油グループの一員として、今後も会社とともに成長していきたいと考えています。

フジオイル (シンガポール)
品質管理マネージャー
Tammy Low



グループ会社ダイアログ

グループで連携し、東南アジアで高い品質とサービスを提供します

2012年5月、フジオイル アジア (FOA) 傘下のパルマジュ エディブル オイル (PAL)、フジ オイル (シンガポール) (FOS)、ウッドランド サニーフーズ (WSF) の各社長と社員が集い、東南アジアにおける不二製油グループのあり方についてダイアログを行いました。

アジアにおける貢献のあり方とは――

吉田 不二製油グループは中期経営計画に「グローバル経営」を掲げています。事業拡大のため東南アジアでどのような貢献を果たしていく必要がありますか？

神崎 PALはパームの原油を購入し、加工してグループへ販売する川上の立場ですので、常に安全で安定した高品質な製品をグループへ供給することが最大の責務だと思っています。

金森 WSFは一番川下で、クリームやマーガリンなど製菓・製パン素材をつかっており、原料油をFOS、PALから購入しています。ASEAN諸国や香港、台湾などでは食の欧米化が進んでおり、高度成長期の日本のようにパンやケーキの需要が増えています。そうした市場においておいしい製品を供給していくことが当社の役割です。

Teo 企業の大切な責務の一つは事業の継続で、そのためには利益をあげることです。特にコストの高いシンガポールにあつては、コスト競争力が最も重要です。

Kelvin FOAで主に油脂の販売・マーケティングを担当する立場としては、お客様の要求への対応が最も重要です。特にシンガポールでは飽和脂肪酸・トランス脂肪酸の規制が強化されており、その対応が課題です。

金森 当社も低トランス脂肪酸の製品をすでにお客様に販売しています。シンガポールでは、トランス脂肪酸が低く、かつおいしいものをつくっていく必要があります。これも油脂メーカーの重要な使命ですね。

地域に根ざした原料調達

有馬 私は原料部から派遣された駐在員で、現地のサプライヤーと不二製油グループの顔が見えるおつきあいをしていくこと、グループ全体で効率的に安全・安心・安価な素材を調達することが役割です。不二製油は、環境や食品安全に配慮したサプライヤーから適正な価格で調達できるよう、購入先を選別しています。お取引先からの要請もあり、RSPOへの対応は重要なテーマです。

神崎 PALは2004年からRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)※1に加盟しています。さらに生産効率を上げる改良策について、NPOとの協働を検討しているところです。

吉田 バリューチェーンの上流にある農園と一層良好な関係を構築していくことは、企業の持続可能な発展にとっても、ステークホルダーからの信頼に応える意味でも大切です。

※1 RSPO：P26参照

現地サプライヤーと良好な関係を築いています

不二製油株式会社
原料部 シンガポール駐在

有馬 淳広



地域の特性に合わせた新たなおいしさを提供します

ウッドランド サニーフーズ (WSF)
社長

金森 泰助



コミュニケーションを活性化し一体感を醸成します

フジ オイル (シンガポール) (FOS)
社長

Teo Yong Wah



価格だけではなく、不二の強みで勝負することが重要です

フジオイル アジア (FOA)
セールス&マーケティング マネージャー

Kelvin Sng



常に安定した品質の製品を提供することが責務です

パルマジュ エディブル オイル (PAL)
社長

神崎 康之



従業員とともに――

吉田 従業員への責任についてどのように考えていますか。

神崎 マレーシアは特に人種も宗教も多様ですので、それぞれの価値観や文化に配慮しながら良好な労働環境をつくることは、従業員のモチベーション維持や生産性を高めるためにはとても大切です。そのためには従業員の意見を聞き、よく話し合うことです。

Teo 次世代育成が重要です。これまで積み重ねてきた知識や経験を社内で共有し、若い世代に伝えていくことが大切です。また、社員一人ひとりが参加意識を持って、経営側とともに会社の未来を考えてほしい。そのためのコミュニケーションの活性化も必要です。

統括会社FOAに期待すること

吉田 FOAが設立され、何を期待されますか？

Teo FOAを通じて本社との意思疎通がより円滑になることを望みます。また、各社のベクトルを合わせ、連携を強化できればと思います。そのためには研究開発 (R&D) をさらに強化し、東南アジアのニーズを見極め、コスト削減による競争力の向上を図りたいですね。競合も多い環境ですから、一つのグループだからこそできる合理化によって、アジアでのシェアを拡大したいと思います。

神崎 統括会社には、各社の調整役として、一つ上の視点から判断してもらいたいと思います。3社をとりまとめてもらうことで、グループとして目指す方向性が明確となり、いろいろな意味で無駄を抑えることができます。

Kelvin 高まる需要に競争力ある価格で応えることは大切です。そのためには3社が連携することは効果的です。ただ、価格競争だけではなく開発や品質など、不二の強みで勝負することも重要だと思います。アジアは成長市場ですが、安さだけでなく品質の高さも求められています。そうしたニーズを正しく認識して、お客様の真の需要に対応することが重要です。

有馬 日本と海外のお客様の要望の違いなどを肌で感じる中で、各社の動きや課題が見えてきました。現地で得

た情報を日本の原料部だけでなく、FOAと共有し、グループ全体の最適化を追求していきたくと思っています。

金森 吉田社長は「一つの会社であるという意識を持って」と言っていますが、これが大切だと思います。FOAは不二製油の東南アジア版だということですね。我々は一つという意識があれば、効率的で合理的な事業活動ができますし、たとえば人材面で協力し合うこともでき、当然お客様にも一層お役に立てる体制をつくれると思います。



新体制のもとで目指す姿――

吉田 最後に、今後の目指す姿を教えてください。

Teo もちろん高い品質とサービスを提供することが必要ですが、そのためには人材が重要です。皆で一体感を持って一つの目標に向かう――そんな会社でありたいです。

神崎 PALとしては、安定した品質の製品を適正価格で供給することが最も重要です。一方で、より多くの量を供給することが、価値ある企業として評価される指標でもあります。今後は量にこだわっていききたいですね。

金森 東南アジアの人たちに、もっとおいしいものを食べてもらいたいというのが私の思いです。まだ食べたことのない日本のおいしさや新たな味を、現地のニーズに合わせてながら、適正な価格で、より広い地域に提供していくこと。それが一番の目標です。

ダイアログを終えて

統括傘下3社のサプライチェーンは、東南アジアにおける不二製油グループの強みです。FOAが統括機能を発揮し3社を支援することで、各社の機能をより強固にし、シナジー効果でさらなる発展を目指すことができます。そのために、3社の社長と、連携をとりながらグループ力を高めていきます。

フジオイル アジア (FOA)
社長

吉田 友行 (司会)





特集
02

海外におけるサステナブル経営の推進

ASEANでナンバーワンの業務用チョコレートメーカーを目指して

急速な経済成長を続ける東南アジアの中でも、特に成長が著しい国、インドネシア。1990年代からチョコレートを製造・販売する「フレイアバディ インドタマ (FAI)」は、市場の成長とともにさらなる発展が期待されています。徹底した品質管理と事業体制をより一層強化するための企業風土づくりに力を入れています。



フレイアバディ インドタマ
所在地:インドネシア
事業内容:業務用チョコレートの生産・販売

「市場が伸びれば競争も激しくなります。その中で勝ち抜いていくには、“チョコレートならFAI”と言ってもらえるような、お客様との良好な関係をつくりあげ、維持し続けることが重要です」と、FAI取締役の森川は語ります。

「より多くの皆様においしいチョコレートをつくって食べていただく。それが私たちの使命であり社会的責任です。お客様に求められるチョコレートをすばやくつくってお届けし、技術的なトラブルがあればすぐに対応する。そうした総合的な取り組みによって信頼を獲得し、使命を果たしたいと考えています。」



おいしいチョコレートをお届けしたい

2.4億人という世界第4位の人口を有し、2011年のGDP成長率が前年比6.5%という高度な経済発展が続くインドネシアは、食の巨大市場でもあります。この地で1995年から業務用チョコレートを製造・販売しているのが、「フレイアバディ インドタマ (FAI)」。

高い生産能力を生かして、インドネシア国内をはじめ近隣諸国に送り出しています。もともとオランダ統治下にあったことからチョコレートにはなじみが深いインドネシア。首都ジャカルタにはパン・洋菓子店も数多く、生活の欧米化とともにチョコレートの需要が拡大しています。FAIではこの変化を追い風に、現地に合った開発・生産・販売を積極的に展開、業績を伸ばしています。

食品メーカーとして品質管理を徹底

「おいしさの追求はもちろん、安全・安心な製品をお届けすることも、食品メーカーとしての私たちの大切な役割です。このため、スタッフの意識を高く保ち、品質管理を徹底することに力を入れています」とは工場長の宮本。

FAIでは、日本独自の手法である「5S活動」(「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰)」や安全5訓を毎朝唱和することで従業員の意識を高め、仕事の中で実践しています。「日本企業の良いところは積極的に取り入れています」と宮本が語るように、5S活動をはじめ、日本で始まったクイックレスポンス活動※1や指差し呼称などもFAIで展開しています。

「基本的なことを一つひとつ毎日実践することが安全・安心な製品づくりにつながるという意識改革を、経営陣も含めた社員全員で進めています。」

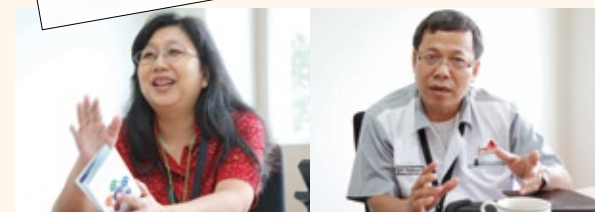
※1 クイックレスポンス活動:顧客への迅速な対応を目指した社内活動

さらなる成長のための一体感強化

こうした意識改革を行う一つの方法として、FAIではお客様のニーズに応えるためのSPIRIT 5カ条を掲げています。「情熱」「誠実」「クイックレスポンス」「チームワーク」「お客様視点」の5項目でまとめ、「カルチャー (企業文化)」としています。駐在員とナショナルスタッフ幹部らが中心となって作成したこの指針は、カード形式にして経営陣から現場作業員まで全員に配布しています。さらに、その浸透を図るため、2011年2月には「カルチャー大会」を開催。従業員の家族も参加し、ゲームを通じて「カルチャー」について理解を深めました。



カルチャー大会の様子



カルチャー作成の中心メンバーであるCSR担当のkristinと総務部のHery

フレイアバディ インドタマ
取締役
森川 和季



フレイアバディ インドタマ
工場長
宮本 昭二



フレイアバディ インドタマ
部門長
Arfianto Adisastra



フレイアバディ インドタマ
部門長
Elly Puspitosari



「企業風土の醸成や人材育成は時間がかかりますが、これらの取り組みによってチョコレート日産量が増加するなど、意識改革による成果は着実に出てきていると感じています」と宮本。

ASEANのトップ企業を目指して

FAIのビジョンは「ASEANでナンバーワンの業務用チョコレートメーカーになること」。その実現には、従業員一人ひとりがこのビジョンを共有し、会社として一体感をもって取り組む必要があります。

ナショナルスタッフ幹部らもその思いは共通です。総務担当のArfiは「人材育成についても、日本のプログラムを取り入れていきたい」、営業部門長のEllyも「商品売るだけでなく、お客様と一緒に成長したい」と熱い思いを語ります。

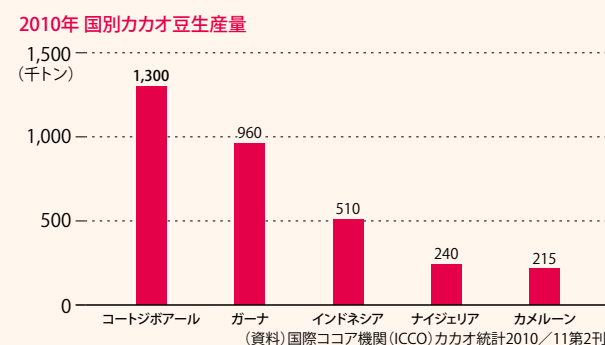
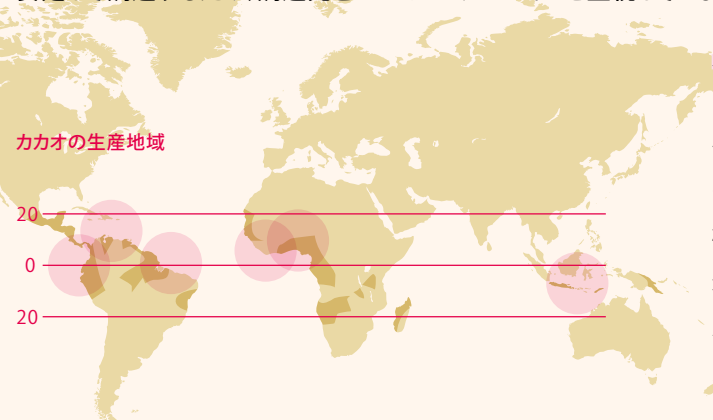
安全・安心を徹底し、おいしいチョコレートをつくるためには、意欲あふれる企業風土の醸成と人材育成が欠かせません。FAIは今、着実にその取り組みを進めています。



カカオ農園視察

おいしさと安全・安心をお届けするために

主要製品のひとつであるチョコレート。カカオの風味を最大限に引き出すため、不二製油グループでは、世界の産地から豆を厳選しています。安全・安心で、品質の良いカカオを安定して調達するため、調達先とのコミュニケーションを重視しています。



カカオの抱える課題への取り組み

カカオは赤道をはさんで南北緯度20度以内、年間の平均気温27度以上、年間降水量1,000mm以上の高温・多湿な限られた地域で栽培される熱帯植物です。収穫は、樹を植えて2年～4年後くらいから行われ、15～20年後に最も多く収穫できます。コートジボアール、ガーナ、ブラジル、インドネシアといった西アフリカ、中南米、東南アジアが主な産地です。

カカオの栽培に関しては、天候不順や土壌などの自然環境の影響を受けやすく、また、害虫や病気によって品質や収穫量が安定にくいという問題や、労働環境に関する社会的問題が指摘されています。

こうした課題に対処するため、不二製油は2012年、世界カカオ財団 (WCF) に加盟しました。WCFは持続可能なカカオ経済を推進する国際的な会員制の財団で、現在、世界各国から90社を超えるカカオ関連企業が加盟し活動しています。

チョコレートができるまで 2012年5月、購入先の一つであるインドネシアのカカオ農園を視察しました。



栽培

種から苗木を育てます。シェードツリーと呼ばれる背の高い木で影をつくり、直射日光から苗木を守ります。ある程度育つと「接ぎ木」をします。たとえば、害虫に強い品種に、実がよくなる木を接ぎ木するなど、高品質のカカオの栽培に取り組んでいます。



収穫

樹は高さ7～10m、幹の太さは10～20cm、幹にも花をつけ約6カ月で実になります。実はカカオポッドと言い、長さ15～20cm、直径15cm程度のラグビーボールのような形。1cm以上の殻に覆われ、パルプという白い果肉に包まれ30～40粒の種子、カカオ豆が入っています。



発酵

カカオポッドからパルプとともに取り出したカカオ豆を一週間ほど発酵させます。木箱にカカオ豆を入れ、一段ずつ落として発酵していきます。この過程で発酵が進み、カカオ豆の中の成分が変化してチョコレートの香りの成分が醸成されます。

Voice 現地の声

カカオは病気になりやすく、安定した収穫ができるまで時間がかかるなどの栽培の難しさ、国際カカオ相場の下落から、インドネシアではカカオ農家が減少しています。私の農園は複数の企業とお取引がありますが、最近ではこうした状況を受け、今回の不二製油様のように持続可能な農園経営について、お取引先の企業と対話する機会が増えていますし、今後さらに増やしていきたいと思っています。

サステナブルな農園を目指し、カカオの安定生産や生産性の向上に取り組んでおり、より多くの高品質なカカオが生産できるよう接ぎ木技術を習得したり、有機肥料を使用した栽培方法を約2年前から実施しています。こうした技術や農法は、他の農園とも共有していきたいと考えています。

また、一緒に働く従業員は私にとって家族同然であり、経営者として働きやすい環境を整えたり、福利厚生を提供などが大切だと認識しています。彼らのためにも持続可能な農園経営はとても重要です。お取引先企業や他の農園とも協力し、カカオの生産を守っていきたいと考えています。

視察した インドネシア
カカオ農園主
Tiara Setiadi氏



生産者の顔が見える調達と農園とのコミュニケーション

さらに、不二製油ではカカオの安定調達に取り組んでおり、ガーナ産のトレーサブルカカオの購入を開始して



います。生産者の顔が見える調達を行うことで、安全で安心なカカオで生産したチョコレートをお客様にお届けしています。

また、サプライヤーである農園へ視察を行い、おいしく安定した品質のチョコレートを生産するためのパートナーとして、農園とコミュニケーションを行っています。農園から提供いただいたカカオでチョコレートを試作し、農園主とともに仕上がりを確認、改善点などを話し合い、より良い品質のカカオを目指すなどの取り組みを進めています。

視察を終えて

私たちの生活を豊かにしてくれるチョコレート。その原料であるカカオ豆がさまざまな課題を抱えていることが、農園主の方と対話することで見えてきました。

おいしいチョコレートをお客様に提供し続けるためには、カカオがサステナブルでなければなりません。持続可能な農法や生産性向上のための研究機関、教育機関の設立など、私たち企業側も農園の持つ課題に対して共に解決できるよう取り組むことが重要です。農園と企業の双方で将来を見据えた活動が必要と考えています。

不二製油株式会社
CSR推進室
後藤 愛



栽培

種から苗木を育てます。シェードツリーと呼ばれる背の高い木で影をつくり、直射日光から苗木を守ります。ある程度育つと「接ぎ木」をします。たとえば、害虫に強い品種に、実がよくなる木を接ぎ木するなど、高品質のカカオの栽培に取り組んでいます。



収穫

樹は高さ7～10m、幹の太さは10～20cm、幹にも花をつけ約6カ月で実になります。実はカカオポッドと言い、長さ15～20cm、直径15cm程度のラグビーボールのような形。1cm以上の殻に覆われ、パルプという白い果肉に包まれ30～40粒の種子、カカオ豆が入っています。



発酵

カカオポッドからパルプとともに取り出したカカオ豆を一週間ほど発酵させます。木箱にカカオ豆を入れ、一段ずつ落として発酵していきます。この過程で発酵が進み、カカオ豆の中の成分が変化してチョコレートの香りの成分が醸成されます。



乾燥

発酵の終わったカカオ豆は約3分の1が水分ですが、乾燥させ水分を6%以下まで落とします。約1メートルの高さに組んだ木組みの上にカカオ豆を広げ、約一週間天日乾燥させます。乾燥が終わると、カカオ豆はココアやチョコレートの原料らしい茶褐色に変化します。



出荷

大きさを機械で選別されたカカオ豆は麻袋に入れ出荷します。各国の厳しい基準に基づいて検査し、合格したものを輸出します。



Tiara氏の農園から収穫されたカカオは、「チャンジュール」という高級チョコレートに使用しています。



03

特集

「二つとない」を支える研究開発 事業化を目指した研究へ 生まれ変わる フードサイエンス研究所

油脂の構造を自由にデザインする「酵素エステル交換技術」。おからを原料として多様な機能をそなえた食物繊維「水溶性大豆多糖類」。不二製油グループは、これまで世界にはなかった、こうした独創的な技術によって食文化の発展に寄与してきました。まさに「二つとない、をつくる。」不二製油グループの事業。その基盤には充実した研究開発体制があります。ここでは、広範な基礎研究によってその一翼を担うフードサイエンス研究所 (FSR) の取り組みについてご紹介します。

所在地: 茨城県つくばみらい市
設立: 1990年

に食の安全や健康などのニーズに合わせた素材を生み出す「素材開発」、お客様と新商品を開発する「応用開発」の3セクションに分かれており、各々が連携しながら進めています。

FSRは茨城県つくばみらい市の「つくば研究開発センター」にあり、さまざまな研究機関が集結する立地の利点を活かしながら基礎研究に取り組んでいます。その前身は「新素材研究所」ですが、新素材だけでなく、広範囲に研究対象を拡げ、2003年から「フードサイエンス」の名称を掲げています。

「これまでは研究の新しい芽を見つけることが目標でしたが、今は事業化まで持っていくことが我々のミッションです。基礎研究は時間のかかる仕事で、たとえば水溶性大豆多糖類も、1987年に研究を開始し、世に出るまで6年かかりました。今後は、時間をかけながらも、事業化できるか否かの判断はスピードアップしていく必要があると思っています。」現在のFSRの役割について、研究本部長の前田は

コア技術の深掘りによって 新事業を創造する

不二製油グループの研究開発は、油脂の品質や大豆たん白質の構造などについての「基礎研究」、それをもと

つくば研究開発センター

語ります。

FSRの目下の取り組みは「当社のコア技術を深掘りし、拡大すること」と語るのは所長の木田。「たとえばコア技術の一つ、分別については新しい原料で新しい機能を持たせることで、新しい市場へ進出していくことを考えています。大豆の分画については溶剤を使わずに分画を行えば環境にも貢献できます。また、おいしさ成分の数値化や食品の構造分析など、他社や他部門の研究をサポートすることも重要な仕事です。」

新しい「二つとない」を創り出す 仕組みづくり

新中期経営計画は、「グローバル経営」「技術経営」「サステナブル経営」の推進を基本方針としています。中でも「技術経営の推進」は、技術、素材、製品提案の総合力によって新しい価値を提供する上で重要な施策であり、FSRへの期待もますます高まっています。

「当社は研究員比率が高く、特許取得件数も常にトップクラス。その技術力をどう活用し、社会に役立てていくかについてロードマップを策定しているところです。FSRとしては、研究員が次の事業テーマを常に考え続けられるよう提案制度を導入するなど、ボトムアップによって新事業を創造する仕組みづくりを進めています。新しい価値を創造し続けなければ当社グループの未来はないという

食料品分野における不二製油の特許出願ランキング
(特許庁行政年次報告書より)

2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
1位	3位	2位	4位	4位

Voice

世界の食の課題解決に役立つことを夢見て

現在、「環境や健康にやさしい油脂の製造に必要な触媒の研究」と「新規油糧植物の探索」に取り組んでいます。これらの研究・探索は、自社製品や加工技術の幅を広げることに役立つと確信しています。FSRでは今年度から研究体制が変わり、スピード感をもって事業化につなげるという意識が浸透しつつあるように感じています。

また、学生の頃から食糧問題に興味を持っており、FSRで検討を開始した東南アジアでのパームの育種の研究などが、これらの問題の解決につながればと願っています。

研究本部
フードサイエンス研究所
加藤 真晴

危機感に立って、「新たな「二つとない」技術」を創造していきたいと思います。」(前田)

「人」の可能性を引き出す、 開かれた組織へ

FSRが不二製油グループの質的成長の原動力となる上で重要な要素は、「人材の育成」であると前田は考えています。「新素材を創造するのも事業化するのも結局は人です。ですから、事業化までを視野に入れ、最後まで責任を持つ研究員を育成していきたい。そのためには抜擢によってモチベーションを高めたり、定期的な部門のローテーションによって視野を広げるなど

の仕組みも必要です。また、世界的な研究ネットワークの拠点として、海外グループ会社や研究機関との人材交流も活発化したいですね。日本から海外への派遣だけでなく、海外スタッフが日本で経験を積み、自国で現地向け製品を開発するリーダーになってもらうことは、グローバル経営推進の観点からも重要です。」

今後のFSRのありかたとして、木田がイメージしているのは「開かれた組織」。「これからは、海外との情報交換も含めて、より開かれた研究所にしたいと考えています。市場開拓についても、これまでのように他の研究開発部門から提供される情報だけではなく、我々が自ら出て行く姿勢が必要です。」

FSRは今、世界的な事業環境の変化にも柔軟に対応できる組織として生まれ変わろうとしています。

常務取締役 研究本部長
兼つくば研究開発センター長
前田 裕一

特集3

19

「二つとない」を支える研究開発

特集3

18

「二つとない」を支える研究開発

不二製油グループのCSR

不二製油グループ CSRの考え方

企業理念を具現化し、本業を通して社会の課題解決に貢献することが、不二製油のCSRであると考えています。
「CSRは経営そのものである」という考えのもと、ステークホルダーの期待や要望に応え、常に新しい価値を提供し、課題解決に貢献することで社会と不二製油双方の持続的な発展を目指しています。

FUJI WAY

企業理念

「食」の創造を通して、
健康で豊かな生活に貢献します。

コーポレートメッセージ

二つとない、をつくる。不二製油

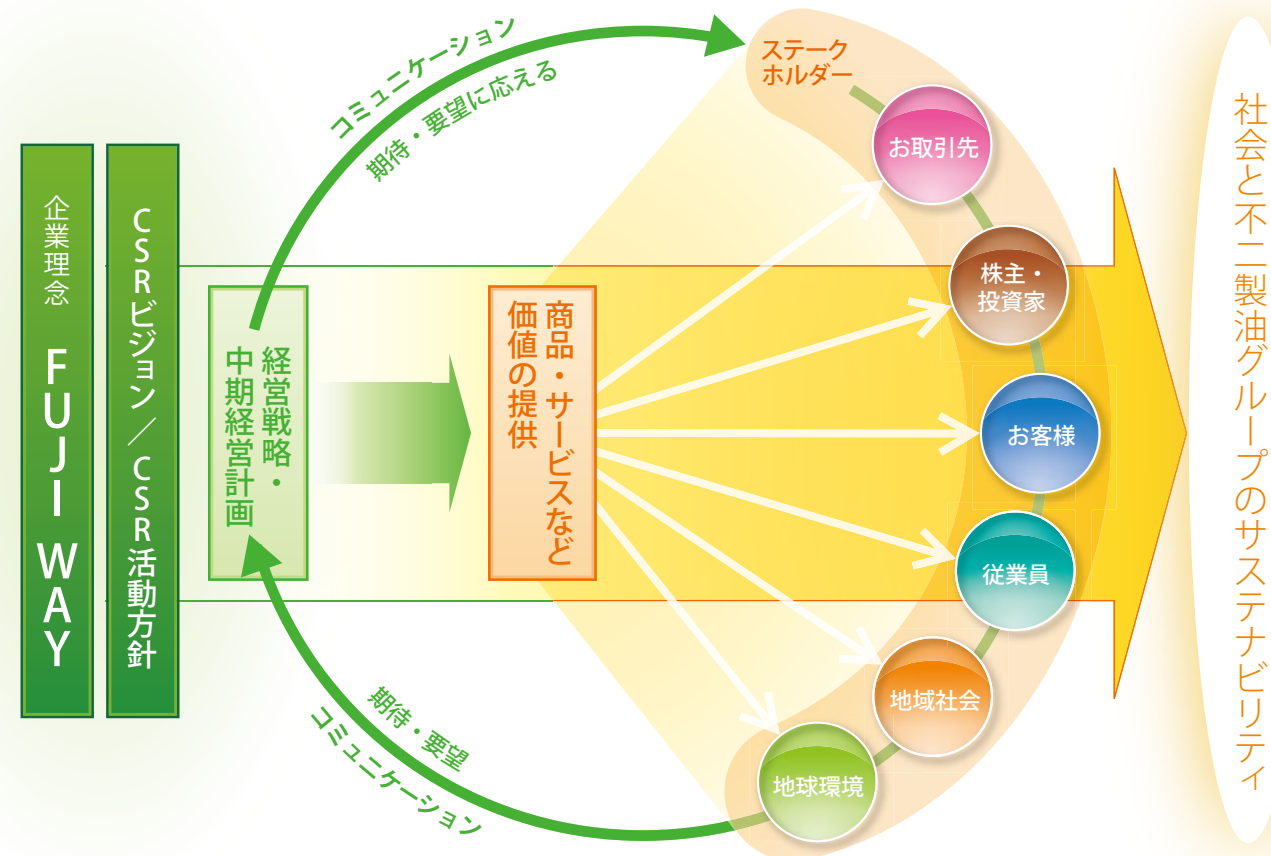
経営理念

□経営の前提

安全・品質・環境を最優先する。

□経営基本方針

顧客への貢献を果し不断の発展を図る
創造の精神をもって常に革新に挑む
自己啓発を熾んにし人格の向上を目指す



CSRビジョン

不二製油グループのCSRビジョンは、
企業理念『「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。』を実現することです。
「人マネをしない」という創業の精神を胸に、食品素材メーカーとして価値ある製品・サービスを提供し、
社会の皆様から信頼され、期待される「二つとない、をつくる。不二製油」を目指します。

CSR活動方針

I.「食の創造」に関する取り組み

1.価値の創造

「企業理念」実現の柱として、油脂と大豆たん白を中心とした新たな食品素材の開発に取り組み、世界のお客様の期待に応えるものづくりを通じて、健康や美味しさなどの新しい価値を提供します。

2.食の安全・安心・品質

お客様に安心と満足をお届けするために、徹底した安全性の確保と品質の向上に努めます。

3.持続可能な調達

持続可能な食資源の研究開発を行うとともに、自然環境との調和と安定供給を実現するサプライチェーンも含めた持続可能な原材料調達に努めます。

II.「人権・人材」に関する取り組み

1.人権

グローバルに事業を展開する企業として、グループ内にとどまらずサプライチェーンも含めた基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。

2.人材

不二製油グループ発展の基盤は人材です。多様な価値観をもった従業員がイキイキと能力を発揮できる効率的で安全な職場環境を整備します。従業員一人ひとりの成長を支援し、企業理念の実現に貢献できる人材を育成します。

III.「環境」に関する取り組み

環境経営を推進する企業グループとして、原料・水・エネルギーの効率的な利用、地球温暖化防止、廃棄物の削減、生物多様性に配慮した原料調達などに努め、事業活動と環境の調和を図ります。

IV.「社会貢献」に関する取り組み

不二製油グループは、企業理念の「食」「健康」「豊かさ」に関する社会貢献活動をグローバルに展開していきます。また、良き企業市民として、地域社会とのコミュニケーションを図り、より良い社会作りに貢献します。

V.「CSR基盤」に関する取り組み

1.企業理念の浸透とグループCSRマネジメント

グループ全体に「FUJI WAY」の浸透を図るとともに、グローバルな視点でCSRマネジメントを推進できる体制を整備・運用し、更なる改善に努めます。

2.コンプライアンスとリスクマネジメント

透明性の高い健全な経営を実現し、信頼される企業であり続けるためにコンプライアンスを推進するとともに、持続可能な事業活動の推進のため、リスクマネジメントを強化します。

3.ステークホルダーとのコミュニケーション

事業に関わるすべてのステークホルダーと誠実な対話をおこない、その期待に応えることで、信頼関係を構築するとともに、得られた知見をCSR活動に活かします。

4.CSRサプライチェーンマネジメント

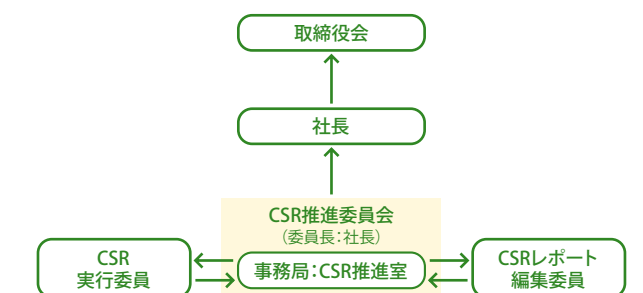
取引先との公正で公平な取引を徹底し、取引先との連携を深め、CSR調達を推進します。

CSR推進体制

不二製油では、CSR経営のより一層の推進を図るため、2011年、社長を委員長とするCSR推進委員会を設置、全社的なCSRの方向性について審議・決定しており、2011年度は4回開催しています。

また、CSR関連部門の部長クラスで編成しているCSR実行委員会では、CSR中計課題に対する進捗報告会を年2回実施し、PDCAを回す仕組みを構築しています。

CSR推進体制図



不二製油のCSR課題と取り組み

当社が目指すサステナブル経営実現のため、全社的なCSR課題への取り組みをCSR活動方針に沿って示しています。
2011年度活動計画に対する取り組みの総括と評価を行い、次年度の目標を設定し、PDCAサイクルで取り組んでいます。

○：計画どおり進捗している △：進捗がやや遅れている ×：全く進んでいない

分野		重点テーマ	中期的課題	2011年の活動計画	2011年度の取り組み総括	評価	2012年度の活動計画	関連報告ページ
食の創造	価値の創造	食の課題解決	安全・安心、健康を意識した製品の 新技術、新製品開発	消費者を意識した 安全・安心な技術開発の推進	●低トランス脂肪酸油脂、低飽和脂肪酸製品の開発 ●酵素エステル交換油脂製品の開発	○	●低トランス脂肪酸油脂、低飽和脂肪酸商品： お客様の要望に合う製品開発及び拡販 ●酵素エステル交換油脂：製品開発及び新油脂の開発、販売	P27
				高齢者の健康とおいしさに貢献する製品の開発	●健常シニア食市場の調査・検討の実施 ●低油分チョコレート、クリームの開発及び製品化 ●呈味（ていみ）強化油脂の設備導入による生産、販売開始	○	●健常シニア食市場での新規事業開発 ●新しい呈味（ていみ）強化油脂の開発	P27
			大豆事業の価値創造による 栄養健康市場の開拓、 大豆主体食品による新展開の実現	高齢者・幼児を意識した製品開発の推進	●鉄分強化豆乳『調製豆乳 まめてつ』を学校給食向けに発売 ●『まめプラス』シリーズ3品の発売	○	●『豆乳ぶりん（ヨーグルト風味）』の発売（学校給食向け／乳、卵不使用） ●高齢者向け高たん白栄養食品の開発、販売	P29
				消費者を意識した大豆主体食品の推進	●大豆から揚げ、大豆そぼろ食品の発売、新規採用 ●ベジタブルバーグの外食チェーンでの継続的な採用	○	●新生産方法の確立と新基軸製品の開発・販売 ●外食チェーンへ的大豆主体食品の拡大	P28、29
	安全・安心・品質	品質事故 重大クレームゼロ	危害分析技術の向上	想定外物質分析技術の構築	●大豆、カカオ豆の農業一斉分析技術の確立 ●ブラインドテストによる想定外農薬の検出、 同定についての有効性の確認実施	○	TOF-MS、ICP-MSなどを活用し主要原材料のリスク評価を実施	P31
				微量金属分析、微生物迅速分析技術の確立	ICP-MS装置により、微量金属の検出、定量分析法を確立	○	TOF-MS、ICP-MSなどを活用し主要原材料のリスク評価を実施	P31
	持続可能な 調達	持続可能な安定調達	調達先との関係強化	原料サプライヤーとの関係維持・強化	●インドネシアパートナーとの長期契約取引の継続 ●マレーシア農園企業との長期契約取引の開始 ●資材取引先との連携の強化、品質向上施策の実施	○	●原料パートナーとの関係強化 ●新規原料調達先の調査 ●資材取引先との連携強化と品質向上施策の継続	P30、31
			地震等の自然災害も考慮した 安定調達のためのサプライチェーンの構築	現状サプライチェーンの見直し	主要購買品のサプライチェーンの調査、見直しの実施	○	全購買品のサプライチェーンの明確化	P30、31
		環境に配慮した CSR調達	RSPOサプライチェーンの確立	サプライチェーン認証の情報収集、 認証取得農園との関係づくり	●阪南事業所でのサプライチェーン認証を取得 ●グループ会社向け認証油の販売	○	●グループ会社向け認証バーム油調達の継続 ●産地精製会社のサプライチェーン認証情報の収集	P26
人権・ 人材	人権	人権課題の把握	グローバルベースの人権課題の把握	事業活動と人権課題の関係性調査	CSR調達ガイドラインの作成	○	●取引先への調達ガイドラインアンケートの実施 ●トレーサブルカカオ豆の視察、購入の検討 ●マレーシアパーム油企業と共同したCSR活動推進	P43
			サプライチェーンでの人権配慮の推進	主要サプライヤーの人権配慮調査の検討			CSR調達ガイドラインアンケート結果の分析による施策の検討・実施	
		人権意識の向上	従業員の人権意識の向上	人権啓発施策の検討	●社員意識調査の実施 ●グローバル行動規範の策定	○	人権項目を含む、「グローバル行動規範」の発信と徹底	P42
		人権に配慮した労務管理	人権に配慮したグループ労務管理の推進	海外グループ会社の人権・労働現状調査	CSRアンケートの実施、分析、検証による現状の把握	○	●人事部とCSR推進室による調査の実施 ●Sedex（労働、腐敗、差別、環境）の普及	P42
	人材	人材育成の強化	社内研修やキャリア形成支援の充実	管理職研修の充実	部長研修15名、新任管理職研修19名、考課者訓練162名実施	○	より充実した研修内容の改善	P33
				キャリアプラン策定支援	キャリアアップコミュニケーションシートの活用	○	継続実施と活用方法の改善	P33
		グローバル人材育成	グローバルに活躍できる人材の創出、 海外勤務者に対する各種制度体制の整備	海外人材育成プログラムの検討・実施	●海外早期トレーニー制度の策定、実施 ●海外グループ会社ナショナルスタッフ研修の実施検討	○	●海外早期トレーニー制度の継続実施 ●海外グループ会社ナショナルスタッフ研修の実施	P33
					2012年4月 外国籍2名採用	○	2013年4月 外国籍数名を目標に採用検討	P34
		ダイバーシティの推進	多様性を尊重する組織風土の醸成	外国籍社員の採用	再雇用者の職域開発の検討	△	継続検討と規程の見直し	P34
				定年再雇用規程の見直し	●FAN活動を継続実施 ・外部セミナーへの参加、他社交流会の実施 ・社内セミナー、アンケート、座談会の実施 ・女性管理職は3名増の5名、組織長は8名	○	●外部セミナーへの積極的な参加 ●FANメンバー公募による積極的な活動推進	P34
				女性の活躍の場の拡大				
		ワークライフ バランス推進	ワークライフバランスを支援する 体制づくりの推進	労使による仕事の効率化推進	ノー残業デー実施による効率化の推進	△	継続推進と新施策の検討・実施	P37
				多様な働き方の支援制度検討	カムバックエントリー制度の新設	○	2012年4月 1名再雇用	P34
		労働災害、事故の防止	リスクアセスメント	全事業所での導入定着	●つくば工場での導入教育開始 ●阪南事業所の進捗管理実施	○	●3工場での導入、教育の実施 ●阪南事業所の進捗管理実施	P35
			安全横展開ネットワークの構築	海外情報収集と定期パトロールの実施	●3拠点の海外安全情報の収集及び共有 ●海外安全定期パトロール6拠点の実施	○	●環境データと合わせた海外安全情報集計 ●定期パトロールの実施 ●安全教育、情報の提供	P35
		健康な職場づくり	メンタルヘルス該当者の復職サポート	国内グループ会社での カウンセリング窓口の確保	弁護士、精神科専門医、労働組合の意見を聴取し、 最終案を策定	△	●傷病救済、メンタルダウン休職者復職支援策の見直し ●策定案を規程化・制度化しグループ会社へ展開	P35
			健康診断受診率向上と受診後の的確なフォロー	国内グループ会社との連携	不二製油本体の各事業所・拠点へヒアリングを実施	△	各事業所、国内グループ会社へヒアリングを実施	P35

不二製油のCSR課題と取り組み

○:計画どおり進捗している △:進捗がやや遅れている ×:全く進んでいない

分野		重点テーマ	中期的課題	2011年の活動計画	2011年度の取り組み総括	評価	2012年度の活動計画	関連報告ページ
環境	地球温暖化防止	CO ₂ 排出量:2020年 20%低減 (基準年対比)	国内 2011年度 2,500kℓ／年 低減	●パイプロ油ボイラーなどによる積極的な取り組みの実施 ●国内グループ会社合計 259kℓ (原油換算) 対前年増加	△	●パイプロ油ボイラーの利用拡大 (阪南事業所、石川工場) ●省エネ投資の推進 ●節電の推進	P37	
			環境にやさしい物流改革の推進	ソフトタンク導入とモーダルシフト拡大	●ソフトタンク導入 10月開始、ラウンド運行スタート ●モーダルシフト JR輸送数量前年比2,000トン増の目標達成	○	●ソフトタンク導入:別経路の往復運行の検討 ●モーダルシフト :目標数値の再検討、継続実施 ●JR貨物との交流やパートナーへの継続啓発	P38
		省エネルギー技術の導入	省エネ技術導入:目標 2,190kℓ／年 低減	2,782kℓ低減 (目標▲2,190kℓ)	○	約2,000kℓの低減	P37	
	水資源の保全	2020年 20%低減 (基準年対比)	国内2011年度 省給水・排水量 30千㎡ 低減	国内合計:給水量 37,644㎡低減 対前年比 98.7% 排水量 481㎡低減 対前年比 99.9%	△	●VRCドレンの活用推進。雨水排水区別による排水削減継続 (阪南事業所) ●その他各事業所の節水活動推進	P36、38、39	
	資源リサイクル (廃棄物の削減)	再資源化率99.8% 2013年達成	再資源化の推進 再資源化率99.70%以上の達成	国内合計再資源化率 99.91%	○	グループ会社の廃製品の再資源化の推進	P36、39	
			廃棄物の削減	国内合計 総廃棄量 0.3%増加 (対2010年度)	○	●排水スカムの減少検討 ●動植物性残渣の有価処理による廃棄物削減などの推進	P36、39	
	地球緑化、 生物多様性保全	生物多様性の活動方針の策定と 取り組み推進	緑化活動継続と他事業所への展開	大阪府アドプトフォレスト「阪南の森プロジェクト」の推進	○	「阪南の森プロジェクト」の活動継続	P39、45	
			事業活動と生物多様性の関係性調査	有識者とのミーティングの実施	○	継続的实施	P39	
			生物多様性に関する重点課題と 取り組み方針の決定	●WWF主催 ボルネオ植林活動への参加 ●WWFジャパンRSPO普及会議への参加	○	WWF主催の活動への継続的な支援	P45	
社会貢献		社会貢献活動の 組織的推進	社会貢献方針に基づく 国内外での貢献活動の展開	社会貢献方針の策定と推進体制の整備	CSR推進委員会にて社会貢献活動の重点分野を審議	△	関係各部門と連携し、組織的推進策を実施	P44、45
CSR基盤	CSR マネジメント	不二製油グループへの 理念浸透	「FUJI WAY」の浸透	「FUJI WAY」社長と語る会の全国実施	CSR推進委員会にて 「FUJI WAY」についての審議・決定	○	グローバル行動規範と「FUJI WAY」の啓発活動の継続	P40
		CSRの浸透	CSR啓発活動の推進	部門研修でのCSR研修の順次実施	不二製油、国内グループ会社を対象に30部署 計715名実施	○	●新入社員研修、昇格者研修、部門研修の継続実施 ●海外ナショナルスタッフ研修 (英語、中国語)の実施	P40
				CSRレポートのグループ社員への配布	英語・中国語版のCSRレポート作成、配布	○	●国内、海外グループ会社の全社員に配付 ●英語・中国語版アンケート回収によるナショナルスタッフの意見集約	WEB
				イントラネット「CSR便り」継続発信	年間33件掲載	○	「トップメッセージ」、「CSR便り」掲載内容の充実	WEB
		CSR推進体制 整備と運用	CSR推進体制の構築とCSR活動の活性化 CSRビジョン・活動方針の策定と CSRマネジメントシステムの整備	CSR推進委員会の発足と継続的開催	通期5回実施	○	回数、内容の見直し、定期的に継続開催	P21
				第三者ダイアログの実施	神戸大学三品教授による第三者ダイアログの実施	○	有識者による第三者ダイアログ継続実施	P40
				CSRビジョン、CSR活動方針の策定	CSRビジョン、CSR活動方針策定	○	CSRビジョン、CSR活動方針を基にCSR活動の実施	P20～25
				活動計画の進捗状況の確認	CSR実行委員会にて進捗を確認、 中間報告・結果、次年度目標を策定	○	●CSR中計課題をレポートに掲載、活動の見える化 ●実行委員会にて中間、結果報告を継続実施	P22、23
	コンプライアンス	コンプライアンス意識向上と グループ会社展開	コンプライアンス推進体制の 再構築と活動の徹底 グローバルコンプライアンスの確立	グローバル行動規範の策定	従来の行動規範をグローバル行動規範へ改訂	○	●「不二製油グループ・グローバル行動規範」の発信 ●「不二製油グループ・ビジネス行動ガイドライン」策定	P42
				国内・海外グループ会社 コンプライアンス対応状況の調査	海外グループ会社へ弁護士事務所との契約状況及び 法務に関連するアンケートの実施	○	●グループ会社への行動規範説明会を実施 ●地域別、国別のリスクを抽出しビジネス行動ガイドラインへ反映	P42
	リスク マネジメント	リスクマネジメント の強化	リスクマネジメント再構築 BCM ^{※1} の全社的推進	グループリスク情報の収集と把握	グループ会社CSRアンケートによる リスクマネジメントの状況把握	△	アンケートを基にグローバルリスクマネジメントの強化策の検討・実施	P42
				地震安全対策BCP ^{※2} の策定	全社のBCP ^{※2} 規程 「地震災害事業継続計画」を策定	○	●各事業所の地震対策要領の制定と見直し ●各部門の事前準備の策定 ●地震被害想定見直しへの対応策検討	P43
	CSRサプライ チェーン マネジメント	CSR調達マネジメント	CSR調達の取り組み強化	サプライチェーンCSR調達のガイドラインの策定	資材部、CSR推進室によるCSR調達ガイドラインの策定	○	●取引先への発信と本格運用 ●CSR調達ガイドラインを基にアンケートの作成、実施	P43

※1 BCM : Business Continuity Managementの略。リスクの発生によって生じる事業の中断に対し、事業の継続を確保する経営管理手法。
※2 BCP : Business Continuity Planの略。平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画。



油脂加工食品カンパニーは、世界中のお客様へ、不二製油グループの製品を通して健康で豊かな食生活を永続的に提供することを使命としています。それを実現し続けることが社会への最も大きな貢献と考えています。

専務取締役
油脂加工食品カンパニー長
中村 修

「食の創造」に関する取り組み お客様への責任

食の課題解決 ～油脂事業

サステナブルな調達への取り組み

RSPOの認証取得と供給体制

不二製油グループは、地球環境・生物多様性に配慮し、パーム油を将来にわたり長く使用するため、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に2004年正会員として加盟しました。

サプライチェーン認証を取得したグループ会社は、ベルギー、米国、マレーシアに加え、2011年はシンガポール、中国、さらには日本（阪南工場）と拡大しています。これにより、製造ラインと対象製品は限定されますが、SG（分別）、MB（マス・バランス）レベルでの認証パーム油製品の出荷が可能となりました。

すでに一部地域では、顧客への販売が始まっており、今後も、対象製品あるいは対象工場の拡大に向けて活動していきます。

WCFへの加盟

世界カカオ財団（World Cocoa Foundation／WCF）はカカオ豆生産地域の経済、社会基盤、環境を整え、持続可能なカカオ経済を促進する国際的な会員制の財団です。カカオ農家への技術提供や経済・生活環境改善などさまざまなプログラムを実施しており、不二製油はこの活動に賛同し、2012年に加盟しました。今後も安全・安心でおいし

RSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil)

パーム油の供給関係者とステークホルダーとの対話により、持続可能なパーム油の生産、利用、成長を促進することを目的に2004年に設立。

RSPO認証油

RSPOは2008年、持続可能なパームヤシの栽培基準を定め、認証制度を整備。監査に合格した生産者には、持続可能なパーム油であることを証明する証書（クレジット）が発行される。また、パーム使用者は、認証パーム油を購入することで、RSPOの基準に即した生産者を支援し、無秩序な開発を防止できる。

認証油の管理方式

1. Identify Preserved (IP)

単一の認証農園からの認証油が最終利用者に至るまで非認証油と混合されることなく取引される。

2. Segregation (SG)

複数の認証農園からの認証油が最終利用者に至るまで非認証油と混合されることなく取引される。

3. Mass Balance (MB)

非認証油との混合は認められるが利用者は当初の認証油相当量のみを認証油とみなす。

4. Book and Claim (BC)

認証油を証券化し利用者は必要な数量分の証券を購入する。

いチョコレートをお客様にお届けするために、トレーサブル、サステナブルなカカオの調達に取り組んでいます。

WCFサステナビリティ3原則

利益 農家のための公正かつ十分な経済的利益
人 健康的で豊かな生活を営むカカオ農家とコミュニティ
地球 信頼できる確かな環境に対する責務

安全・安心な製品の開発

低トランス脂肪酸油脂、低飽和脂肪酸油脂とこれらを利用した製品の開発

トランス型脂肪酸・飽和脂肪酸については、欧米を中心に日本国内でも関心が高まりつつあります。これらの脂肪酸は、油脂および油脂加工食品にさまざまな機能を付加するためには重要な成分ですが、お客様の中には製品中のこれらの脂肪酸を低減してほしいという要請もあり、素早く適切に対応できるよう研究開発を続けています。

海外でのフジ オイル ヨーロッパ社における、低トランス脂肪酸・低飽和脂肪酸を両立させたフィリング用油脂「Redusat」の開発・販売をはじめ、日本国内と海外駐在の研究員が協力し情報交換を行いながら、お客様からの要望に応えられる製品開発を行っています。



研究開発の様子

健康でおいしい製品の開発

低油分製菓素材の開発

一般的に製品中の油分、脂肪分を減らすと言えば、カロリーカットが目的と捉えがちですが、単に脂肪分を減らすだけでは、製品の機能やおいしさまで低下してしまいます。たとえば、コーティング用のチョコレートは、通常のチョコレートよりも多量の油分が必要ですが、カカオ風味が弱い、食感が油っぽいというご指摘を受けることもあります。これらを解決する手段として、当社では、油分が低くても流動性の良いおいしいチョコレートの製法を確立しました。油分を低減することで、従来にはないおいしさや新たな用途を見つけることが可能となっています。

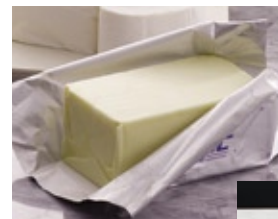


チョコレートコーティング

酵素エステル交換油脂の製品開発

エステル交換とは、グリセリンに結合した脂肪酸の配列を変え、油脂に種々の機能を付加する技術です。この反応を起こすためには触媒が必要で、中でも酵素を用いたエステル交換技術は、当社が古くから研究し世の中に先駆けて実用化してきた分野です。

酵素エステル交換は、製造工程での廃水量を低減できること、また、反応条件が穏和なため油脂の風味を劣化させないことなど、現在の社会的要請に合致した長所を持ちます。当社では、これらの長所に改めて着目し、酵素エステル交換油脂を利用したマーガリン、チョコレート、クリームなどの製品を開発してきました。今後もより一層の技術革新、品質向上を目指して研究開発を続けていきます。



酵素エステル交換油脂を利用した製品群



ていみ 呈味強化油脂の開発

生活習慣病の予防や食事療法として、食品中の塩分を気に掛ける方もいますが、食塩は風味の根幹をなすもので、減塩により食事の満足度が低下してしまっては長続きしません。このような課題を解決するために、当社独自の研究によって、塩味をはじめ風味を強調する機能を持つ油脂（呈味強化油脂）を新たに開発しました。

加工食品などにこの油脂を使用することで、減塩はもちろん、新しい風味の創出にも応用できる研究開発を行っています。



呈味強化油脂を利用したスナック菓子

今、我々は世界的な変換点に差し掛かっています。事業を通して広い視点に立ち、持続可能な社会と地球環境に深くかかわり合い、行動することが求められています。不二製油グループの大豆事業は「人と地球を健康にする」ことを使命としています。新たな技術革新やビジネスモデルを創出するイノベーションを通じて、大豆の新しい価値を創造し、提供すること～大豆ルネサンス～を推進していきます。

専務取締役
蛋白加工食品カンパニー長
清水 洋史

「食の創造」に関する取り組み お客様への責任

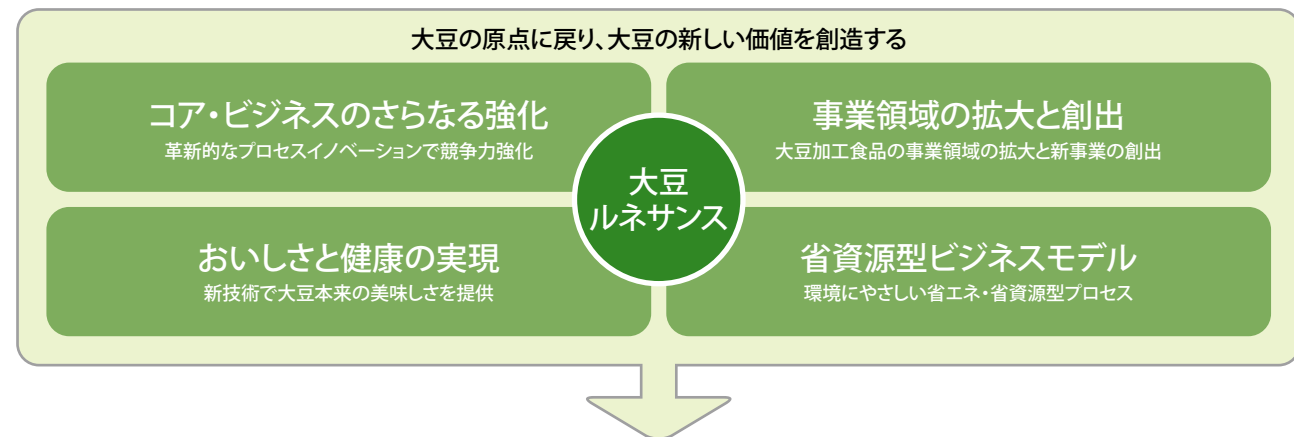
食の課題解決 ～大豆事業

大豆ルネサンスへの挑戦

不二製油は1967年に国内で初めて分離大豆たん白の事業をスタートさせました。大豆を単に油糧資源としてではなく、人類に不可欠なたん白資源・食糧資源としての価値をつくり出し、大豆そのものにこだわって大豆の可能性を追究してきました。

近年では世界的な人口増加、水・食糧・エネルギー資源の枯渇など、地球を取り巻く環境は急速に変化し、持続可能な社会の実現に企業も貢献が求められる時代にあります。不二製油グループの大豆事業がさらに大きな役割を担えるものと確信しています。

大豆ルネサンス ～大豆事業の長期事業戦略～



大豆のチカラで、人と地球の健康に貢献する。

この大きな変換点に、10年先、20年先を意識し長期的な視点で事業戦略を策定した“大豆ルネサンス構想”を立ち上げました。「大豆の原点に戻り、技術革新とイノベーションで大豆の新しい価値を創造する」という考えのもと、大豆のおいしさと健康価値を引き出し、さらには環境負荷の少ないビジネスモデルを確立し世界に広げていきます。

2012年は大豆ルネサンス元年としての一歩を踏み出す年です。その一環で革新的技術を用いた新製品の発売を予定しています。「大豆のチカラで、人と地球の健康に貢献する。」強い意志が不二製油の存在意義です。

子どもたちに食べる楽しさを

アレルギー対応製品の開発

学校給食は、子どもたちが「食の大切さ」「食事の楽しさ」を学ぶ食育として重要な役割を担っています。一方で、食物アレルギーをもつ子どもは年々増加傾向にあり、1.3～2.6%が食物アレルギーの症状を有しているという報告もあります^{※1}。楽しい給食の時間に、友達と同じ食事を一緒に食べる楽しさを享受できない子どもたちも少なくありません。不二製油では、大豆を主原料に卵・乳原料を使用していない「調製豆乳まめてつ」や「豆乳ぷりん」を学校給食向けに商品化しています。みんなと一緒に食べる楽しさを共有できるだけではなく、成長期の子どもたちに必要な良質のたんぱく質やカル

シウムが含まれており、子どもたちの心とからだの元気を大豆が育てます。

※1「食物アレルギーの栄養指導の手引き2011」



調製豆乳まめてつ

豆乳ぷりん

高齢者の食生活のために

高齢社会に対応した大豆たん白製品の開発

5人に1人が65歳以上の高齢者となる超高齢社会が目前となっています。これを背景に中長期的に成長が続くとされている高齢者向け食品市場は、現在約1,000億円規模になっており、うち約70%を流動食市場が占めています。流動食とは、3大栄養素をバランスよく含む完全栄養食をいい、たん白は必須の栄養素と位置付けられています。

たん白源の安定調達は業界の共通課題であり、中でも大豆たん白は利用が期待されている素材です。不二製油では、流動食用製品として「プロリーナRD1」を上市し、利用が進んでいます。

この分野で利用可能な大豆たん白製品を開発することは、新市場開拓だけでなく、たん白の安定供給という社会的な課題解決にもなることから、今後も不二製油は開発に全力を注いでいきます。



プロリーナRD1

大豆のチカラを広く社会に

近年、マクロビオティックやLOHAS (Lifestyles Of Health And Sustainability) といった健康と地球環境に配慮した食生活や植物性食品が注目されています。中でも、大豆・大豆製品は優れたバランス栄養食であり、食物エネルギー効率や水消費量などの観点での環境負荷も低いことから、植物性食品の代表格と言えます。

不二製油では大豆を主役にした「大豆からあげ」や「大豆のそぼろ」などの商品を開発し、多様な食スタイルに貢献し、その価値が評価されています。これからも大豆のチカラを広く社会にお伝えし、豊かな食生活と人と地球の健康に貢献します。



大豆からあげ

大豆のそぼろごはん

購買物流本部は、原料・資材の調達からお客様への製品のお届けまで、全世界にわたりさまざまなステークホルダーとかかわっています。国際的な活動を推進していくために、不二製油グループのCSRビジョン・CSR活動方針に則り、食の安全・安心を基本とした企業の社会的責任をサプライチェーンマネジメントを通じて果たしてまいります。

常務取締役
購買物流本部長
寺西 進

「食の創造」に関する取り組み お客様への責任

持続可能な安定調達のために

原料調達先との関係維持・強化と安定調達

不二製油グループは国内最大のパーム油取り扱いメーカーとして、1985年マレーシア（ジョホール州）に精製会社を設立し、高品質なパーム油の安定的な調達を進めてきました。現在、さらなる持続的な安定調達を目指し、2006年に世界最大のパーム油生産国となったインドネシアや、より日本に近い場所に位置する東マレーシアにも調達先を拡大しています。

2009年にはインドネシアのパートナー企業とパーム油の長期購買契約を締結、マレーシアにおいても2012年よりRSPOに加盟している農園系精製会社と長期契約での調達を開始しています。

また、調達強化のため、シンガポールに駐在員を常駐させることで、取引先とのコミュニケーションもこれまで以上に密接になり、新たな取り組みも始まりました。今後も、長期での

継続的な取り組みによる安定調達と、大切なビジネスパートナーとして、取引先との関係維持・強化を推進していきます。

voice | 従業員の声

世界情勢の変化は激しく、昨日までの常識が今日には常識ではなくなってしまうことが起こる中、ポジティブリスト制度^{※1}の導入、環境意識の高まりなど、原料調達に係わる制約は増える一方です。安定調達を実現するには、社内との関係部署はもちろんのこと、取引先様のご支援とご理解を得ることが必要です。

有事には協力し合える関係を築くべく、現地に赴き、顔を合わせることで不二製油グループをより知っていただくことが大切だと思っています。

※1 基準が設定されていない農薬などが一定量以上含まれる食品の流通を原則禁止する制度



原料部
正垣 光子

サプライチェーンの強化

東日本大震災以降、安定購買の位置づけが大きく変わりました。購買物流本部では、今後懸念される東南海・南海大地震を想定し、サプライチェーンの見直しとさらなる強化に取り組んでいます。

安定調達は購買における最大のミッションということを踏

まえ、購買品種ごとに調達リスクの測定や確認を行っています。購買先の複数化のみでなく、複数拠点購買となっているか、川上原料が一拠点に集中していないか、また川上原料のサプライチェーンが明確化されているかなどを検証しています。750品種を調査した結果、問題のない品種は

130品種、調達可能と判断できる品種は318品種、リスク有りと判断される品種は302品種となりました。調達リスクの有る品種は2012年度以降毎年5%以上のリスク低減を図

る計画です。

また、同時にグループ会社との連携を強化し、グループ全体での調達リスク低減に向けて取り組みを進めています。

voice | ステークホルダーの声

当社は大阪・福井に製造拠点をもち、フィルム包装資材メーカーです。不二製油様との出会いで、本格的な品質管理の向上に取り組むきっかけをいただきました。それは、パートナーとして安全・安心な包材をお届けするために、製造と出荷検品の二つの品質に取り組むことです。

具体的には、製造品質は工場全面改装によるクリーンネスUP、専門業者との防虫対策検討などの異物混入防止対策に重点をおきました。検品対策としては欠点検知器を採用しましたが、求める品質とその効果で機器選定に苦労しました。

また、これらを運営するための品質管理部門を独立させ、品質レベルのアップと標準化を生産部門と一体になり取り組んでいます。

今後は培ったノウハウをさらに展開し、安全・安心なフィルムを安定供給できるよう取り組んでまいります。



NTフィルム 株式会社
代表取締役
中川 修児 様

品質事故、重大クレームゼロを目指して

安全・安心への取り組み

品質に対する考え方

不二製油グループでは、安全・品質・環境を最優先することを経営の前提としています。安全で信頼のおける、お客様に満足していただける製品をつくることを基本の精神に、1996年、品質方針を制定しました。また、品質方針を各部門で展開するために「品質指針」を定め、品質の向上に努めています。

不二製油の品質方針 「顧客満足を実行しましょう」

【品質指針】

1. 質の高い提案営業と情報収集を進め、潜在的な顧客ニーズの変化を捉え、グローバルに新市場の構築を行う。
2. 創造的でタイムリーな製品及び技術開発を行い、顧客の期待に応える。
3. 国内外の法令やルールを共有化し、グループ全体で製品の安全・安心に取り組む。
4. 製品造りに、品質と環境の調和を図る。
5. 課題の本質に衆智を集めて問題の発生・再発を防止する。
6. ひとつひとつ真意の伝わるコミュニケーションをしよう。

想定外物質分析技術の構築

2008年に起きた中国冷凍ギョーザ事件や、カカオ豆の検疫検査でのたび重なる残留農薬基準値超過などを受けて、2011年度、品質保証部ではTOF-MS装置による想定外農薬の検出・同定も可能な農薬分析技術とICP-MS装置による微量金属分析法を確立しました。

2012年度は、これらの手法に加えて、すでに確立している微生物種同定技術と合わせ、主要原材料の残留農薬や微量重金属などの危害物質、付着微生物の分析を行い、原材料に由来する品質リスクの評価を行う予定です。

このリスク評価により、生産部門が原材料を使用する際の管理ポイントの助言や、高リスクな原材料の使用中止・代替品への変更の提言などを行っていくことで、社内での

不具合・規格外発生を予防していきます。また、社外からのクレーム発生を抑制することで、お客様からの信頼を高めていきたいと考えています。



異物分析



農薬分析

多様な働き方と人材のグローバル化が課題です。世界10カ国に展開する企業グループとして、各国で活躍できる人材を育て、各国の人たちに不二製油グループの文化を理解してもらう取り組みを継続して実施していきます。社員が「やりがいと成長を実感できる」会社を目指します。

専務取締役
人事総務本部長
岡本 和三

「人材・人権」に関する取り組み 従業員への責任

人材理念

不二製油グループでは、人材は会社の財産と考えます。「FUJI WAY」に沿って、国内はもちろん、グローバルにも活躍できる「人材」育成を目指します。社員一人ひとりの成長と会社の発展が共に実現することを目指し、社会から信頼される不二製油グループであり続けるために、「人材に関する方針」「人権に関する方針」を定め、人材の育成に取り組めます。

人材に関する方針

- ①意欲のある社員に、イキイキと能力を発揮できる職場を積極的に提供します。
- ②グローバル企業として、多様な人材が活躍できる環境を整えます。
- ③公平・公正な人事制度（評価／処遇／育成）を構築・運営します。
- ④教育・研修制度を充実させ、自己啓発を支援する風土づくりに努めます。
- ⑤多様な働き方を支援し、安全で働きやすい職場を提供します。

人権に関する方針

- ①グローバル企業として、基本的人権に配慮し、国際的な人権規範を尊重します。
- ②国籍、人種、性別、年齢、宗教、障がいなどに基づく不当な差別は行いません。
- ③児童労働・強制労働・不当な低賃金労働の防止に取り組みます。
- ④雇用における機会均等を推進します。

従業員データ

不二製油 従業員数内訳（2012年3月31日現在）

	男性	女性	計
役員（社外役員除く）	16	0	16
正社員・嘱託	955	181	1,136
準社員	59	54	113
契約社員	78	22	100
平均年齢（従業員）	42歳1カ月	36歳5カ月	41歳2カ月
平均勤続年数（従業員）	18年10カ月	14年1カ月	17年9カ月
自己都合による離職率	—	—	0.60%

新卒採用者数

	2009年度		2010年度		2011年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学・大学院卒	11	6	15	9	15	6
高校・高専・短大・専門卒	5	3	7	3	10	0
合計	25		34		31	

連結会社 地域別従業員数

	2009年度	2010年度	2011年度
日本	1,643	1,642	1,760
アジア	1,679	1,727	1,916
米国	96	103	103
欧州	106	102	103
合計	3,524	3,574	3,882

人材育成への取り組み

グローバル人材の育成

海外早期トレーニー制度の実施

海外事業のより一層の拡大に伴い、2011年度に海外早期トレーニー制度を設け、グローバルに活躍できる人材育成に取り組んでいます。若手社員が海外での生活や異文化を体験し、語学力を向上することで、海外駐在のための準備を進めます。

2011年度は5名が中国、シンガポール、マレーシアで6カ月間の研修を行いました。語学習得に加え、現地グループ会社で研究開発、営業、生産の各職場を体験し、食のトレンドを肌で感じたり、現場の改善などの経験を積んでいま

す。2012年5月には社長以下多数の社員が参加した「帰国報告会」を開催しました。2012年度は、12名がアメリカ、ヨーロッパ、東南アジア、中国で研修を予定しています。

海外グループ会社「FUJI WAY」浸透への取り組み

海外事業の拡大を図るためには、ナショナルスタッフの育成、活躍の場の提供が不可欠です。

「FUJI WAY」を理解し日々の仕事の中で実践するため、2011年度は、東南アジアのグループ会社5社を訪問し、不二製油の歴史、企業理念の説明やグループの将来像について活発な議論を行いました。2012年度は、海外グループ会社ナショナルスタッフの日本での研修を予定しています。グループワークを通じて、参加者全員が企業理念を理解することで、「FUJI WAY」の浸透を図ります。



海外グループ会社の研修

voice | 海外早期トレーニー制度を受けて

実際に海外で生活してみて、日本では考えられない出来事・価値観の違いといった異文化を肌で感じました。日本では当たり前とっていることが通じなかったり、またその逆もあつたりと、良い意味で自分の常識が覆されることも。

今回の研修により、物怖じしない姿勢と多角的視点を身につけることができましたように感じます。

今後は海外で活躍できるグローバルな人材を目指して仕事・勉強に取り組んでいきたいと思っています。



油脂部門
油脂生産部
後田 恵太

研修先：パルマジュ エディブル オイル (PALMAJU EDIBLE OIL SDN. BHD.)

管理職研修の充実とキャリアアップ支援

創業の早い時点から次世代経営層の育成に取り組んでいます。2011年度は部長研修（対象者15名）、新任管理職研修（対象者19名）、考課者訓練（対象者162名）を実施しました。部長研修は、経営課題や新規事業について社長へ提言するという経営に踏み込んだ内容となっています。

2008年度からは経営環境の変化に対応できる人材育成を目的にビジネススキルアップ研修を管理職層を中心に開催、2011年度は96名（関連会社9名）が参加しています。

また、従業員のキャリアアップ支援を目的に、キャリアアップシートを作成し、上司との面談を実施しています。

来年度以降も内容をブラッシュアップして実施予定です。

voice | 部長研修を受講して

マーケティング、財務管理などを受講し、事業の企画推進、部下の育成などマネジメント力の向上に役立つ手法や考え方の多くを学びました。また、研修の総括として、個人の目標や会社への提言をまとめました。これらは日常に埋もれず近い将来を見据え、何をすべきかという役割・責任を気付かせてくれています。今後も試行錯誤を重ねながら前進していきたいと思っています。



油脂部門
油脂統括室長
信達 等

ダイバーシティの推進

外国籍社員の積極的な登用と採用

グローバルに事業展開を図るためには、現地の食文化、商慣習を理解し、ニーズを的確に捉える必要があります。海外グループ会社社長に現地人材を登用し、より積極的な市場拡大、販売活動の強化に努めています。2012年には主要海外グループ会社19社中5社が現地人社長となっています。

女性社員の活躍支援「FAN」活動の継続的な実施

誰もが自らの能力を発揮し、会社へ貢献するため、1998年から「不二アクティブネットワーク (FAN)」活動を進めています。仕事と家庭の両立支援や男性社員を含めた意識改革活動など、女性の活躍を推進する風土づくりを目指しています。

2011年度は、「社外イキイキ」「社内いきいき」両分科会において、女性社員意識調査アンケート結果による課題抽

また、不二製油は広く国内外で活躍できる人材の育成を目指し、2011年外国籍の新入社員2名を採用しています。多様な人たちとコミュニケーションを図ることで、異文化交流を促進し、互いに刺激し合い共に成長できる職場環境づくりも狙いの一つです。今後も引き続き外国籍社員の積極的な採用を進めていきます。

出、職種別の座談会や他社との意見交換会を実施しました。2011年度に導入した特定事由退職者のための再雇用制度「カムバック・エントリー制度」はFAN活動から生まれたものです。

今後も男女の区別なく会社の意思決定に参画できる組織風土を目指します。

多様な人材の活用

定年退職者再雇用制度

不二製油では、65歳まで雇用を可能とする定年退職者再雇用制度を設けています。2011年度は、26名が定年を迎え、再雇用希望者全員の22名が引き続き活躍しています。本人の希望にできるだけ沿うよう個別に面談を実施しています。世の中の変化を見極めながら、今後もさまざまな点で調和を考えながら運用を進めます。

	2009年	2010年	2011年
再雇用率	100.0	88.9	84.6

障がい者雇用

障がい者の方の可能性を広げるため、障がい者雇用を推進しています。2011年度の障がい者雇用率は1.93%で法定雇用率1.8%を上回っています。今後もさらなる雇用の維持・拡大、入社後の支援強化、職場環境の整備を進めていきます。

	2009年	2010年	2011年
障がい者雇用率	2.05	1.82	1.93

ワークライフバランスの推進

不二製油はワークライフバランスを重視し、社員一人ひとりの多様な価値観やライフステージに応じ、継続して活躍できるよう環境整備に取り組んでいます。2010年には次

世代育成支援対策推進法に基づく取り組みが評価され、基準適合一般事業主認定（くるみん）を受けています。

2011年度は8名（男性1名／女性7名）が育児休暇の制

度を利用しました。男性社員に対してもポスター提示などでまとまった休暇の取得推進を図っています。

また、2011年度には出産、育児、介護などにより、やむを得ず退職を選択する社員の職場復帰を可能とする「カムバック・エントリー制度」を導入しました。



	2009年度		2010年度		2011年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
育児休暇取得数（人）	2	6	2	5	1	7
育児者の短期間勤務利用者数（人）	0	6	0	11	0	15
介護休業利用者数（人）	0	0	0	0	0	0
有給休暇取得率（%）	46.6		49.9		50.6	

労働安全衛生

労働安全衛生向上への取り組み

2011年の国内グループの全労働災害発生件数は2010年より1件増加の19件（うち休業災害が6件）で、過去3年増加傾向にあります。引き続き全グループでの災害防止に取り組んでいます。2009年度からは、国内事業所ではリスクアセスメント※1を導入し、設備の本質安全化に取り組んでいます。

また、生産管理本部による国内グループ会社・工場との安全定期協議会を2011年度は4事業所で実施、安全活動

の情報交換と現場パトロールを行い、グループ全体での安全レベル向上に取り組みました。2012年度は個人の安全意識向上のため社内安全体感教育にも取り組む予定です。

※1 危険・有害因子（リスク）を把握・評価し、除去または低減すること

不二製油・国内グループ会社災害合計				
	2008年	2009年	2010年	2011年
不労災害	25	15	14	13
休業災害※	7	2	4	6
合計	32	17	18	19

※休業災害：休業一日以上の災害

海外での安全定期パトロールの実施

2011年度は中国3社、東南アジア3社で海外グループ会社安全パトロールを実施しました。特に中国の2社は休業災害が発生したため、緊急の現地確認を行い、再発防止策の指導を行いました。海外グループ会社においても安全衛生管理を推進していますが、国内事業所で実施しているヒヤリハット、KYT（危険予知訓練）などの安全先取り活動

ができていない現場がまだ多くあります。引き続き、定期的に安全パトロールと、安全活動の指導を継続します。

2012年度からは海外の安全情報も集計して、グループ全体のゼロ災害を目指し、事故情報の共有化と横展開を推進していきます。

社員の健康への取り組み

職場のメンタルヘルス対策や厚生労働省の指導による特定保健指導など、従業員の健康管理に対する取り組みが必要とされています。不二製油においても、うつ病などの心の病やその他の疾病により長期休職者が増加しています。また、海外出向者、長期出張者に対するリスク管理を含む健診データの把握とフォロー体制の強化を図ることが必要です。

2011年度は、国内では、復職の支援体制の充実、特定

健診の推進、休職関連の規程見直しなどを行いました。海外では、出向者・長期出張者の健康管理の内容と体制の見直しを検討しています。

2012年度以降は、法改正に伴う健康診断時のメンタルチェック方法の確立を計画しています。海外では、健康診断及び二次健診の100%受診、健診データの把握とフォロー、予防接種など、リスク管理の強化を進める予定です。

サステナブル経営推進のため、環境に配慮した事業活動を進めます。「不二グループ環境ビジョン2020」を掲げ、CO₂排出削減を海外も含めた全グループで追求します。国内では、水資源の保全・資源リサイクルも併せて推進します。特に、ここ数年で電気エネルギー政策は変わります。今年は「省電力」をクリーンな「創エネ」と考え、全社を挙げて取り組んでまいります。

常務取締役
生産管理本部長
高木 茂

「環境」に関する取り組み 環境への取り組み

環境ビジョン2020 と 2011年度環境実績

2011年、不二製油グループの環境活動の指標として「不二グループ環境ビジョン2020」を策定しました。

CO₂排出量と給排水量の削減は絶対値目標とし、2020年に基準年対比20%の削減を目指しています。加えて、地球緑化や生物多様性の保全にも積極的に取り組むことを明記しています。

不二グループ環境ビジョン2020

国内グループ	地球温暖化防止	CO ₂ 排出量2020年20%低減（基準年対比 [※] ）
	水資源の保全	給排水量2020年20%低減（基準年対比 [※] ）
	資源リサイクル	再資源化率2020年99.8%以上
	地球緑化、生物多様性への積極取り組み	
※基準年:03-05年平均値		
海外グループ	CO ₂ 排出量	2020年20%低減（2006年対比）

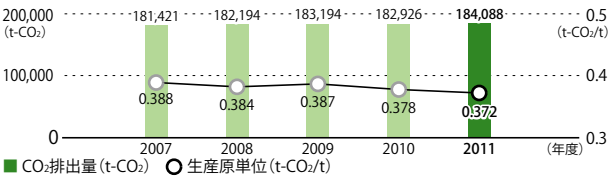
2011年度 環境実績

項目		内容	2011年度実績	評価	掲載ページ	2013年度目標
1	省エネ推進	CO ₂ 排出量の削減	2010年度対比0.6%の増加	×	P37	2010年度対比CO ₂ 排出量6%の削減（国内グループ）
2	給排水削減	給水量の削減	2010年度対比1.3%の削減	△	P38	2010年度対比6%の削減（国内グループ）
		排水量の削減	2010年度対比0.02%の削減	×	P38	
3	廃棄物削減	排出廃棄物の削減	再資源化率99.91%	○	P39	再資源化率99.8%以上（国内グループ）
4	省エネ推進（海外グループ）	CO ₂ 排出量の削減	2010年度対比7.3%の削減	○	WEB	2010年度CO ₂ 排出量の維持（海外グループ）

地球温暖化防止への取り組み

2011年度はバイプロ油ボイラーなどにより、温室効果ガス排出削減の積極的な取り組みを行いました。生産数量は2010年度対比2.2%の増加となったことから、CO₂排出量は0.6%の増加となりました。生産原単位は1.5%の削減となりました。

CO₂排出量と原単位推移



省エネ技術の推進

不二製油グループ（海外グループ会社除く）では、設備化によるエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。2007年度の年間使用量91,400kℓ／年に対し、2013年終了時点で絶対量の30%である27,500kℓ削減を目標としています。

2011年度は削減目標値2,190kℓに対して、蒸気量・電力量の削減を実施し、約2,800kℓ削減しました。

2012年度は削減目標を2,000kℓとしています。主な内容は、堺工場でのメタン発酵水処理によるメタン有効利用、ヒートポンプ利用による省エネルギー効果、おから乾燥機の排熱回収です。また、阪南事業所のマーガリン工場においては、回収油燃焼・脱臭油熱回収などを予定しています。

バイプロ油ボイラー活用によるCO₂排出量削減

2010年1月から運転を開始した「バイプロ油ボイラー」は、生産工程から生成されるバイプロ油（生産過程で発生する副産物）や、排水に含まれる油分などの、いわゆる植物由来の物からつくられる油を燃料としており、温室効果ガスの一つであるCO₂の排出量削減を目標として運用しています。これは、植物を燃焼すると、生育時に吸収した炭素が大気に戻るのみで炭素排出の収支はゼロ（カーボンニュートラル）とみなされるためです。

現在の運用率は計画当初の約50%程度ですが、運転開始から約1年半を経過し、CO₂削減量は通算で4,600tを超え、会社全体の削減量1.5%に相当しています。

2013年度までには、これらのバイオディーゼルであるバイプロ油の利用を拡大し、「バイプロ油ボイラー」の運用率を2倍に引き上げることを目標に、今後は省エネ活動とあわせて、さらに温室効果ガスの削減に努めていきます。

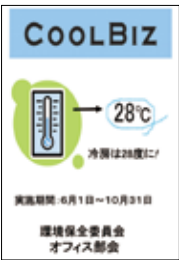


バイプロ油ボイラー

節電への取り組み

東日本大震災後、関東工場、つくば工場、つくば研究開発センターは、2011年東京電力管内に出された電力使用制限令の対象となりました。各工場では土日や夜間早朝の生産シフトや阪南事業所への一部生産シフトを実施しました。全社非生産関連部門では、夏期（7月～9月）に対前年10%削減目標を掲げ、節電を実施しました。具体的には照

明の間引き、クールビズの推進、ノー残業デーの実施です。結果、阪南事業所では、2011年6月～9月の期間で12.5%削減し、目標を達成することができました。夏期以降も引き続き節電活動を継続しています。

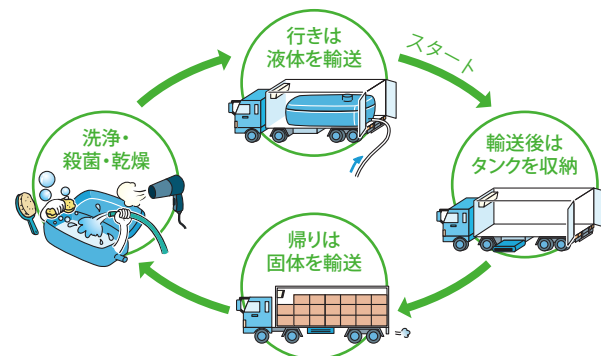


ソフトタンク導入による環境負荷の低減

2009年より、脱脂濃縮乳の輸送に環境負荷を低減する液体輸送システム「ソフトタンク」を導入しています。2011年10月には、ラウンド機能も追加しました。ラウンド機能とは、北海道から阪南工場（大阪府）へ納入した帰り便を利用し、阪南工場の製品を北海道へ輸送するシステムです。北海道の倉庫への納品後は、再度脱脂濃縮乳を積み北海道と阪南工場をラウンドさせ、効率的で環境に優しい輸送システムを構築しました。

また、ソフトタンクの空きスペースを利用した段ボール品の輸送も2011年11月から開始し効率化を進めています。2011年度半年間のCO₂削減量は、115t-CO₂/tとなりまし

た。2012年度は生クリームの輸送にも拡大し、関東圏を含めたラウンドシステムを構築する予定です。

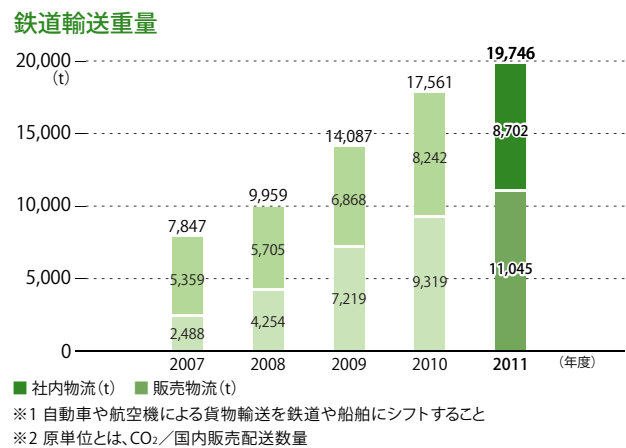


※ソフトタンク輸送：行きは液体、帰りは固体を輸送すること

モーダルシフト※¹の拡大

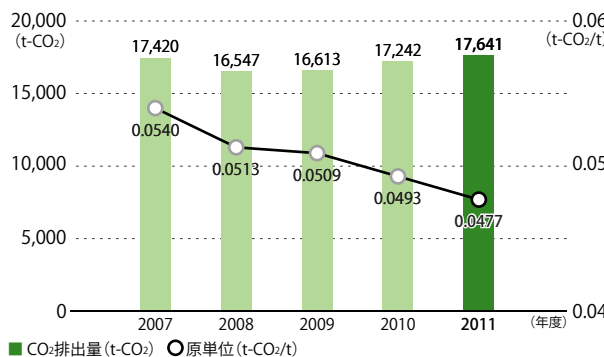
不二製油では、生産部門、販売部門、そして物流パートナーとの協働により、エネルギー使用量およびCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

2011年度は、輸送距離500km以上・社内輸送を中心にモーダルシフトを推進した結果、鉄道輸送は2,186t増加し



ました。また、国内販売配送数量の増加により、輸送によるCO₂排出量は増加しましたが、原単位※²は3.3%削減となりました。

今後も、近場生産・近場出荷による輸送距離の短縮を図りながら、CO₂排出量のさらなる削減に取り組んでいきます。

輸送によるCO₂排出量と原単位推移

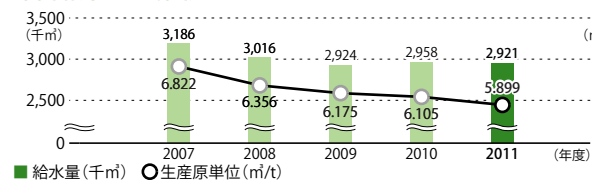
水資源の保全

給排水量の削減

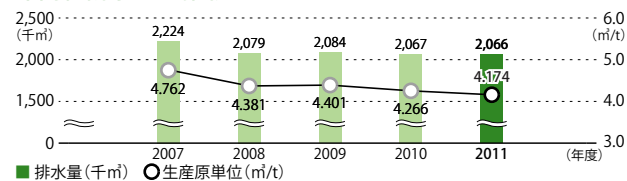
2011年度の給水量は2010年度対比1.3%削減し、生産原単位も3.4%減少しました。排水量はほぼ横ばいですが、生産原単位は2.2%減少しました。特に堺工場ではポンプ

のシール水の循環利用や生産工程で利用する抽出水の再利用により、給排水量の大幅な削減を行いました。

年間給水量の推移



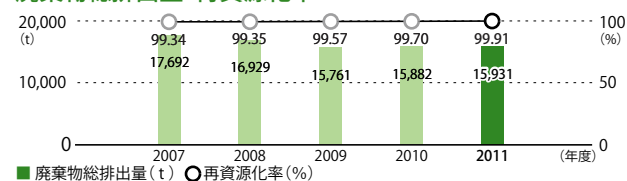
年間総排水量の推移



資源リサイクル

2011年度の廃棄物排出量は2010年度対比0.3%の増加となりましたが、阪南事業所の燃えがら、ばいじんの再資源化を進め、グループ全体（海外グループ会社除く）の再資源化率を99.91%とすることができました。

廃棄物総排出量・再資源化率



燃えがら・ばいじんの再資源化の推進

2011年度は阪南事業所の廃棄物のうち、これまで埋めて処分していた燃えがら・ばいじんの再資源化を検討しました。再資源化できるルートの調査と、現物の成分分析を繰り返し、最終的にはセメント原料への再資源化が可能となりました。これにより、事業所の最終処分量を約10t削減でき、再資源化率を99.88%にすることができました。グループ全体（海外グループ会社除く）の再資源化率は99.91%となり、グループ目標の99.8%を達成しました。

今後は、グループ会社の廃製品のリサイクルを推進し、再資源化率99.8%以上を維持していきます。



TOPICS 阪南の森プロジェクトを継続的に実施

2010年11月、阪南事業所では大阪府の「アドプトフォレスト制度」を利用し、地域の森林を守る活動「阪南の森プロジェクト」をスタートさせました。泉佐野市上之郷にある里山を豊かな広葉樹林にすることを目標に、現在、月1回のペースで活動しています。2011年度は計7回、平均人数17名が参加しました。

活動スタートの年は、繁茂する竹を伐採することが中心となりました。雨天のため活動を中止した月もありましたが、当初の予定通り、山の上部で竹が生育していないエリアまで伐採できました。

伐採したエリアは、活動開始前とは大きく異なり、まさに自然の光がふりそそぐ明るい雰囲気になっています。2012年は植林も開始しています。今後も、手づくりの里山保全を継続していきます。



企業がサステナブルであるためには、社会からの信頼を獲得することと、会社の魅力を創出することの両側面が必要です。CSR基盤の構築と、不二製油グループの目指す姿を表した「FUJI WAY」の浸透を図り、企業価値の向上を目指します。

常務取締役
経営企画本部長
久野 貢

「CSR 基盤」に関する取り組み CSR 基盤の充実

CSRの浸透

第三者ダイアログの実施

2011年9月、神戸大学経営学研究科の三品和広教授をお招きし、CSR推進委員会にて第三者ダイアログを実施しました。「CSRレポート2011」の評価する点と改善点についてご意見をいただきました。

評価する点

- パーム、大豆の事業の全容が見えるようにした点
- CSRの推進体制を社長が委員長となり全社で取り組みをしている点
- 「人権」という強い言葉が登場している点

改善点

- 活動報告ページついて、活動内容が伝わり難い点
- 「人権」は具体性に欠けている点
- パームやカカオの原料調達先の説明が少ない点
- 事業の「源流」に対しての強い関心を示す姿勢が乏しい点

その後、教授と役員との間で、パーム事業・大豆事業の

今後の可能性、人権に対する具体的な取り組み、中間素材メーカーとしての企業広報の意義、CSR調達、CSRレポートの今後への期待などについて、さまざまな意見を交わしました。不二製油グループへの期待や要請を把握するためにも、今後も経営者と外部有識者との意見交換会を行っています。



ダイアログの様子

CSR研修の実施

「不二製油グループのCSR」の浸透を目的に、2011年度より社内CSR研修を実施しています。新入社員研修や昇格者研修、30部署での部門研修を実施し、計715名が受講しました。研修後のアンケートでは、「CSRがわかった」、「なんとなくわかった」が98.1%と、多くの従業員にCSRの理解を得ることができました。

今後も不二製油グループのCSR浸透に向けて、継続的に

取り組んでいきます。



不二神戸フーズ(株)でのワールドカフェの様子

「QR活動」の推進

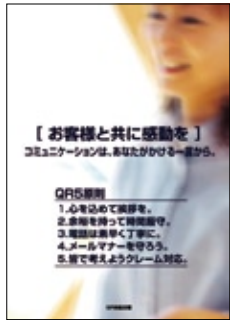
QR (Quick Response) 活動は、「お客様に選ばれ続ける会社となる」と、「社内の連携と連帯感を強め、社員が“やりがいと成長”を実感できる会社をつかっていく」ことを目的とする全員参加型の社内活動です。

2011年度は、自社製品への知識深耕のための展示試食会、部署間・事業所間での情報共有のためのコミュニケーションの促進、他社の活動を学ぶ勉強会や他社見学会などを実施しました。今後もさまざまな活動を通して、顧客満

足につながるスキルと意識の向上を目指して推進していきます。



展示試食会の様子



啓発ポスター

コーポレート・ガバナンス

役員退職慰労金制度の見直し

コーポレート・ガバナンスの推進と経営の透明性向上のため、役員退職慰労金制度を廃止することを2012年5月の取締役会で決議しました。2012年6月開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度に係る打ち切り支給の議案をはかり、承認可決されました。

さらに株式報酬制度を導入することにより、役員報酬は

より株主利益との連動性を重視した制度に改定しました。新しい役員報酬制度は、役員が株主との意識を共有し、企業価値向上のためのインセンティブとして機能するものと考えています。

今後は、コーポレート・ガバナンス向上に資する対策として、独立社外取締役の要件策定などさらに検討を進める予定です。

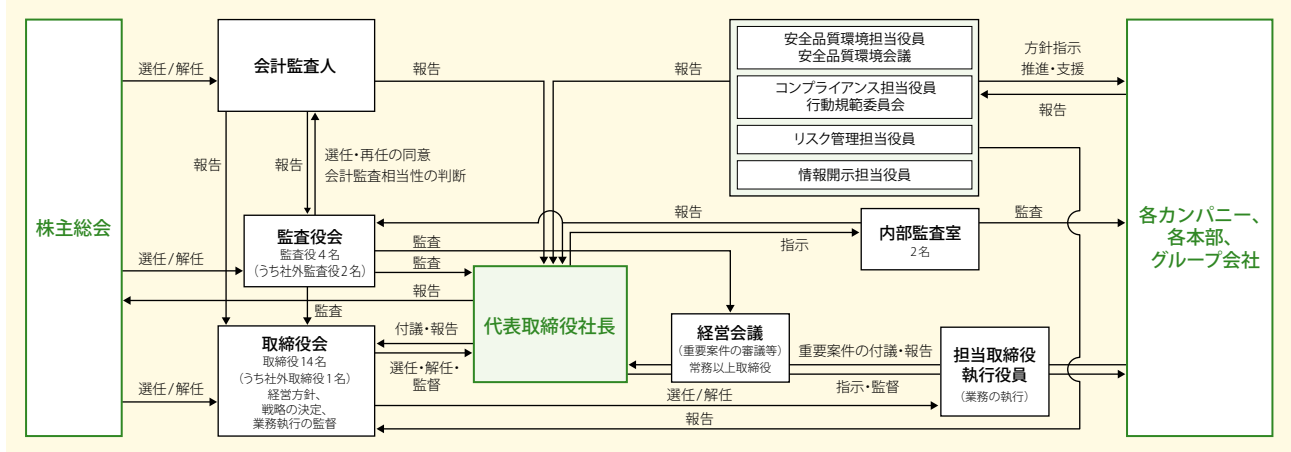
コーポレート・ガバナンス推進体制

不二製油では、コーポレート・ガバナンス基本体制として、株主総会を頂点とし取締役会および監査役会を設置しています。機動的な経営体制の構築や事業年度ごとの経営責

任の明確化を目的として、取締役の任期を1年としています。

また、監査役の任期については、定款の任期調整条項を撤廃し、前任者の在任期間にかかわらず、就任後4年間としています。

コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンスの推進

グローバル行動規範の策定と発信

「不二製油グループ行動規範」は2003年の制定以来9年が経過しましたが、不二製油の経営がよりグローバル化する中で、グループでのコンプライアンスに対する考え方や行動規範を共有すべきステージを迎えています。

「不二製油グループ行動規範三原則」を再認識するとともに、三原則に付帯する説明文を時代や社会の期待に沿った表現に改訂しました。また、日本語や英語、中国語をはじめ7カ国語に対応し、国内、海外の不二製油グループに発信しています。

不二製油グループ各社で働く社員が、「不二製油グループ行動規範」を共通の価値観として共有することにより、コンプライアンスに対する意識を高めるとともに、単に法律や法令、諸規則を守るだけでなく、社員一人ひとりが社会の要請や期待に応えることの大切さを常に意識しながら日々の業務に従事することを目指しています。

今後はさらに、いろいろなビジネスシーンで想定されるコンプライアンス上の課題をまとめた「ビジネス行動ガイドライン」を作成する予定です。

各国語に対応した不二製油グループ行動規範

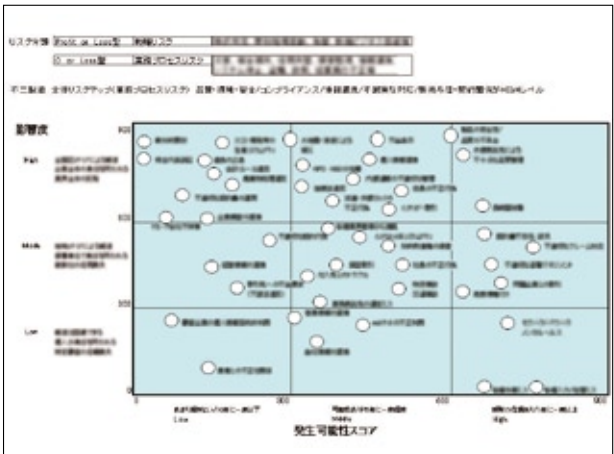
日本語	英語	中国語	マレー語
行動規範 基本三原則	Three Principles of the Code of Conduct	行为规范3原则	Tiga Prinsip Tatakhlakuan
1. ルールを守ります。 2. 正直に行動します。 3. 公正に行います。	1. Follow the rules. 2. Act honestly. 3. Act fairly.	1. 遵守规则 2. 行为正直 3. 行为公正	1. Patuhi peraturan. 2. Bertindak dengan jujur. 3. Bertindak dengan adil.
インドネシア語	タイ語	ポルトガル語	オランダ語
Tiga Prinsip Tata Tingkahlaku	จรรยาบรรณธุรกิจ หลักพื้นฐาน 3 ประการ	Três Princípios do Código de Conduta	De Drie Principes van de Gedragscode
1. Taati peraturan 2. Bertindaklah dengan jujur 3. Bertindaklah dengan adil	1. ปฏิบัติตามกฎหมาย 2. ทำหน้าที่อย่างสุจริต 3. ทำหน้าที่อย่างเป็นธรรม	1. Seguir as regras. 2. Agir honestamente. 3. Agir de maneira justa.	1. Leef de regels na. 2. Wees eerlijk 3. Handel rechtvaardig

リスクマネジメントの強化

全社的なリスク管理の整備

国内外グループ会社にCSRアンケートを実施し、主にコンプライアンスやリスク情報の収集と把握を行いました。重要なリスク項目では方針や規範がないグループ会社も散見され、リスクマネジメントを強化するためには、方針・規範・体制を整備する必要があります。

公正取引、コンプライアンス、労働安全衛生などについては、不二製油グループとしての一体運営が求められることから、関連部門と協力しながら早急に全グループへの周知徹底を図ります。また、各グループ会社で想定されるリスクの洗い出しを行い、リスクマップを作成し、リスクの回避、低減、移転などを検討、実施していきます。



リスクマップ

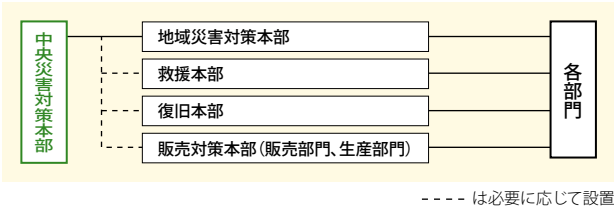
大規模災害を想定した地震災害BCPの作成

防災対策の要として全社の地震対策の必要性から、2010年BCP(事業継続計画)策定の検討を開始しました。2011年3月の東日本大震災を受けて、従来の事業所単位での地震対策要領から、全社の「地震災害事業継続計画」に改定し、行動項目を明確にしました。また、重要な指揮命令系統・体制を明記した「不二製油中央災害対策本部規定」を新たに策定しました。

今後は事業継続のための見直しをさらに繰り返し、生産機能・間接機能の代替手段の詳細を検討します。具体的な事前準備として、緊急連絡用の衛星電話を全事業所に

設置完了し、避難訓練については、必須でなかった支店や営業所にも積極的な参加を呼びかけています。食糧の備蓄など帰宅困難者への対応準備も進め、人命救助の観点では一定の対策ができてきました。

地震BCP体制図

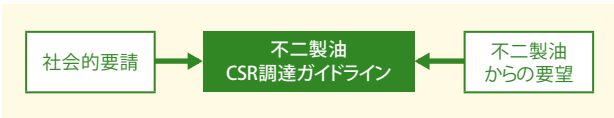


CSR調達ガイドラインの策定

不二製油グループでは、お取引先の協力を得て相互に連携したサプライチェーン全体での取り組みが重要と考えています。

CSRへの要請が高まる中、調達活動におけるCSRの取り組みをさらに推進するため、2012年、不二製油CSRビジョン・CSR活動方針に基づき「CSR調達ガイドライン」を策定しました。具体的には、企業倫理・コンプライアンス、リスクマネジメント、適正な品質・価格・安定供給、環境への配慮、人

権・労働安全衛生への配慮、情報セキュリティ、公正取引、社会貢献の8項目で示しています。2012年度は、ガイドラインに基づき、お取引先の状況を把握するために「調達ガイドラインアンケート」を実施する予定です。お取引先との連携により、CSR調達の推進を図ります。



経営の透明性向上

株主・投資家とのコミュニケーション

株主総会では、株主の皆様とコミュニケーションを図るとともに、不二製油への理解をより深めていただけるよう総会後に株主懇親会を継続して開催しています。2012年の株主懇親会は「社会の中で、皆様とともに」をテーマに、不二製油グループのCSRや環境への取り組みについてのパネル展示、当社グループの製品紹介を行いました。

決算説明会は、機関投資家や証券アナリストの皆様に対して、社長出席の下、年2回開催しています。また、アナリスト向け決算説明会で用いた各種資料は迅速にホームページに掲載し、情報を公開しています。



2012年株主総会



決算説明会の様子

「社会貢献」に関する取り組み

不二たん白質研究振興財団を通じて継続的に学術研究を支援

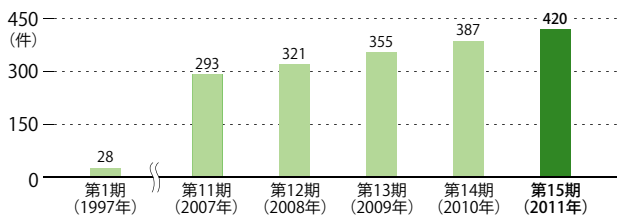
1979年、不二製油は大豆たん白質栄養研究会を設立し、大豆たん白にかかわる研究助成を開始しました。その後、1997年に財団法人として認可され、2012年4月からは内閣府の認定を得て公益財団法人として事業を続けています。不二製油グループは33年にわたり、寄付金拠出、研究材料の提供、情報支援、講演会の運営協力など一貫して財団事業の支援を行っています。2011年には助成課題数が420件（1979年から延900件）に及び、大豆・大豆たん白質研究における推進役として社会貢献を果たしています。

これまでの継続的な学術研究支援の結果として、大豆たん白質の栄養価値、コレステロール低下の効果、メタボリックシンドロームに対する効果、大豆ペプチドやインフラボンの栄養・生理機能などが明らかにされ、これらの成果は

特定保健用食品の開発など大豆たん白食品の広がりや、大豆・大豆たん白質の健康価値の認知に大きく寄与しています。

また、大豆に含まれるたん白質の構造・物性研究、大豆成分の分析や機能性解明、大豆種子の育種研究など基礎的な研究を支援し、日本国内における研究分野と研究者の裾野の拡大にも貢献しています。

不二たん白質研究振興財団 助成累計件数の推移



モザンビーク・ナカラ回廊農業開発支援プロジェクトへの参画

日本・ブラジル・モザンビーク三角協力によるアフリカ熱帯サバンナ農業開発協力プログラム (Pro SAVANA-JBM) では、小規模農家の貧困削減、国内食料問題の低減を図るとともに、国際市場を志向した中・大規模農業開発支援を行い、世界の食糧安全保障に貢献する取り組みが2009年から始まっています。

日本では国際協力機構（JICA）と民間企業が官民合同でこのプログラムに取り組んでおり、2011年5月より技術協力プロジェクト「ナカラ回廊農業研究・技術移転能力強化

プロジェクト」を開始しています。

不二製油もこのプロジェクトに参画し、食品原料となる大豆、ごま、ひまわりなどの品質評価・用途開発などの取り組みを行います。また、農業開発支援に留まらず、「現地でつくって、加工し、消費する」ビジネスモデルの構築を視野に入れ、大豆の新しい可能性を希望の大陸で展開したいと考えています。



アフリカ・モザンビークでの視察の様子

TOPICS ベルギー王国より王冠勲章コマンドール章を受章

2012年4月、当社代表取締役社長 海老原 善隆は、ベルギー王国の国王陛下より、国家的に功績のあった者に対して与えられる王冠勲章コマンドール章を受章しました。1992年、ベルギー・ゲント市に合弁会社を設立、2001年には完全子会社（Fuji Oil Europe）化し、不二製油グループのヨーロッパにおける拠点としています。海老原社長は1992年より約6年間副社長としてベルギー

に駐在、帰国後も同社会長や現職を通してベルギーおよび同社と深くかわりをもっており、20年以上にわたる経営活動がベルギー経済の発展に貢献したとの評価をいただきました。



フィリップ皇太子より勲章を受章

地域社会とともに

不二製油の社会貢献

拠点名	項目	概要
全社	生物多様性保全	伊藤忠商事150周年記念事業「ボルネオ島熱帯林再生及び生態系保全プログラム」へ協賛 〈公財〉世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）へ寄付
	文化活動支援	泉佐野交響音楽団へ運営資金を寄付
	環境	日本生物工学会創立90周年記念事業へ寄付
	食の課題解決	国際連合世界食糧計画WFP協会の活動を評議員として支援
	地域貢献	熊取町町制施行60周年記念事業へ寄付
		りんくう花火大会へ運営資金を寄付
		泉佐野学童ソフトボール大会へ寄付
		りんくうメディカルプラザ主催の健康セミナーへ豆乳を協賛（年6回）
		りんくうメディカルプラザにて「不二製油文化講演会」を開催（年3回）、子どもの健全育成、予防医学の積極推進や地域の健康増進などを支援
	寄付	自然、地域保護団体「日本で最も美しい村連合会」へ寄付 日本赤十字社へ事業運営支援金を寄付
	震災支援	東日本大震災奨学金支援プログラム「みちのく未来基金」へ寄付、震災遺児を支援
		東日本大震災復興支援継続イベント「3.11From KANSAI」運営資金の寄付
阪南事業所	生物多様性保全	泉佐野商工会議所を通じ、東日本大震災義捐金の寄付
	文化活動支援	里山保全活動「阪南の森プロジェクト」によるボランティア支援
	次世代教育支援	泉佐野市文化振興財団主催「泉の森ホール」コンサート協賛
	施設開放	近隣小学校の会社見学受け入れ
	機器備品の再利用化	泉佐野保健所管内給食研究会へ「プラザ」開放
	清掃活動	機器備品の入れ替え時、 （従来の産廃から）再利用業者への積極的な下取り
	使用済み切手・ハガキ、エコキャップの回収	食品コンビニート 清掃活動「くりーん・ぐりーん作戦」へ参加
	献血	使用済み切手・ハガキ、ペットボトルのキャップ回収
	植樹	会社及びコンビニート協会連合の献血運動の主催
	清掃活動	クール・ダムSAKAI「共生の森」参加、土作りと植樹
堺工場	地域貢献	工場周辺の清掃活動
神戸工場	植樹	浜中町自治会へ「夏祭り」用の食材提供
	植樹	「兵庫運河を美しくする会」を主催 桜の木10本植樹
	清掃活動	工場周辺、「兵庫運河を美しくする会」の清掃活動参加
	地域貢献	消防署の啓発フェア協賛
千葉工場	清掃活動	清掃活動「くりーん・ぐりーん作戦」へ参加
	寄付	環境再生基金へ募金
	エコキャップ	企業カレンダーの老人ホームへ寄付
	献血	ペットボトルのキャップ・プルトップの回収
	次世代教育支援	献血の実施
関東工場	地域貢献	地元高校就職活動のための社会見学（工場見学）受入れ
	障がい者支援	笠間市バレンタインイベントへチョコレート協賛
	寄付	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の助成金活用事例集への協力
	使用済み切手、エコキャップの回収	岩間工業団地連絡協議会を通じ赤十字募金、赤い羽根募金、更正保護観察賛助、笠間市社協へ協賛 不用カレンダーを福祉NPOへ寄贈
	植樹	使用済み切手、ペットボトルのキャップ回収
東京支社	エコキャップ	ペットボトルのキャップ回収
名古屋支社	エコキャップ	ペットボトルのキャップ回収
福岡支社	障がい者支援	福岡県指定障がい者就労支援事業所からのケーキ購入
	使用済み切手・ペットボトルの回収	使用済み切手・ペットボトルの回収
つくば研究開発センター	地域貢献	近隣小学校（2校）へのバザー協力
	清掃活動	周辺道路の清掃活動
	寄付	募金活動 （赤い羽根、つくばみらい社会福祉協議会、絹の台自治会）
	献血	献血の実施

国内グループ会社の社会貢献

拠点名	項目	概要
株式会社フジサニーフーズ九州	地域貢献	こども110番の表示
	清掃活動	近隣の定期清掃活動
	障がい者支援	福祉施設へ就労支援 ボランティア施設入所者へお菓子作りサポート
	震災支援	従業員等個人献金集約募金 洋菓子店と連携、被災地での食事の提供・支援物資の協賛
	使用済み切手・ハガキ、エコキャップの回収	使用済み切手・ハガキ、ペットボトルのキャップ回収
トララク株式会社	イベント協賛	神戸ルミナリエ協賛 「東灘スイーツめぐり」協賛 「親子で作る簡単デコレーションケーキ体験」教室開催（親子15組36名招待） 「東灘うはらまつり」（東灘区主催）に神戸プリンを協賛 六甲アイランドマラソン大会にベプチドを協賛 住之江児童館 Xmasに毎年神戸プリンを協賛 神戸市献血センターに神戸プリンを協賛 六甲アイランド収穫祭 / バザー出展 和歌山商工まつり / バザー出展
	地域貢献	工場周辺の清掃活動
	清掃活動	六甲アイランド地域振興会主宰の清掃に参加
	震災支援	東日本大震災復興追加支援「神戸プリン」売上個数1個につき1円を義捐金として日本赤十字を通じて寄付。総額2,831,061円
	地域貢献	地域特産物（山手・黒豆）を使った製品開発 地域まつりへの協賛 ホームページでの地域イベント情報発信
フジフレッシュフーズ株式会社	清掃活動	工場周辺の清掃活動

海外グループ会社の社会貢献

拠点名	項目	概要
パルマジュエディブルオイル	生物多様性保全	TFT（NGOの一つ）のRSPOにかかわる調査に協力
	寄付	社内のムスリム互助会のハラハラ祝会に寄付
不二製油（張家港）有限公司	次世代教育支援	地元大学インターン生（3名）の受入れ
ニューレイテエディブルオイル	次世代教育支援	現地3校（92名）の工場見学受入れ
	地域貢献	2011年3月/バロ地区洪水のPPA（フィリピンポートオーソリティー）主導の物資支援へ協賛 タナワンの美化推進のため、半切りドラムを使用したゴミ箱製作
	寄付	自治体主催の行事などに寄付
フレイアパディインドタマ	地域貢献	カラワン工業団地の地元農民の自立支援 農家大による農業指導や植樹の実施
	植樹	工場周辺へ植樹30本
山東龍藤不二食品有限公司	地域貢献、環境、生産性向上支援	循環型農業を推進している取引先へ余ったおからを乳牛の飼料用に安価で提供
天心不二蛋白有限公司	次世代教育支援	日本の大学生の中国研修（10名程度）実施、工場見学受入れ
不二富吉（北京）科技有限公司	食の課題解決	国家糧食局科学研究院との交流と共同研究 中国食肉研究中心との交流を継続
	地域貢献	地域とのコミュニケーション強化のため中国（北京）日本人会、及び中国日本商会などの講演会、イベント参加

第三者意見

不二製油のCSR推進室のメンバーとは2010年度から対話を重ねてきました。その積み重ねに基づいて、ここにCSRレポート2012に対する第三者意見を記述いたします。

神戸大学経営学研究科
教授 三品 和広氏



特に評価したい点

今年度のレポートは見所満載です。法律では開示を要求されていない数字が随所に見やすく掲げられており、企業活動をガラス張りにするもので、不二製油の「見える化」は着実に進展している感があります。

透明性という意味では、海老原善隆社長の下で陣頭指揮をとる役員の顔が見えるようになった点も革新的です。彼らが顔写真付きで自らのコミットメントを熱く語った26ページ以降をぜひご覧下さい。各部門の責任者は、これで社会に対して約束をしたわけですから。もう引くに引けないでしょう。有言実行に期待したいところです。

もう一つ可視化が進展したのは、10ページから始まる特集の1と2で取り上げられたアジア事業です。ここでもキープレーヤーが登場するため、不二製油がグローバル市民の一員として社会に貢献する様が親近感をもって迫ってきます。

一年前の第三者意見で指摘させていただいた課題についても、誠実な対応がとられています。その最たる例は22ページから25ページを占める大きな一覧表です。字が小さくて読みづらいと思われる方もいるでしょうが、それだけ不二製油においてはCSR活動が充実しており、報告に値する内実がたくさんあるということです。この表を誠実に作成し続けることで、担当者の問題意識も年々研ぎ澄まされていくことと思います。

対応という点では、特集2の後半も特筆に値します。日本ではブラックボックスにとどまりがちなチョコレートの基幹原料、カカオの調達に踏み込んで開示が進んだことは、素晴らしいことだと思います。おいしいチョコレートの裏側には、往々にして自然を破壊したり、子供を酷使したり、内戦に資金を供給する農園があるとされているだけに、あらゆる意味で「安心」して口にできるチョコレートの供給に、

これからも努め続けてほしいと願います。

今後に期待したい点

東日本大震災やタイの洪水は、サプライチェーンの脆弱性を浮き彫りにしました。企業が社会的責任を果たすという観点から言えば、及第とはみなしがたい企業が続出したことは記憶に新しいところです。今年度のレポートでは、不二製油として点検を進めたことが30ページで報告されていますが、パームは大丈夫か、大豆は大丈夫か、という不安を解消したとは言えません。世界的な食料不足が叫ばれている時勢にも鑑みると、今後のレポートで供給の信頼性に光を当てていただければと思います。

原料については、他の不安もつきまといまいます。不二製油の出発点となるパームやカカオには、人権問題や環境問題が山積していると指摘する声が絶えません。今年度のレポートでカカオの透明性が増した点は前進ですが、取材先が全体に占める割合は、おそらく微々たるものでしょう。今後はパームも含めて、主要原料の「クリーン度」をモニターしていただきたいと思います。

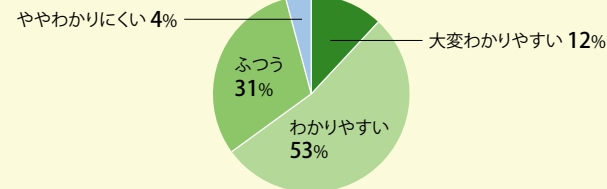
最後に、研究開発を取り上げた特集3には注文をつけたところです。「二つとない」を掲げる不二製油にとって、つくば研究開発センターは文字通りエンジンです。それなのに、レポートはセンターの表玄関しか紹介していない印象が残ります。タンパク質や糖に比べると、油脂に関する知識は社会に浸透しているとはいいがたく、トランス酸に関する不安、健康油に関する混乱、ダイエットへの関心などが、漠然としたまま社会に渦巻いているのではないのでしょうか。そこに正しい知識を定着させていくことは、油脂の専門家集団、不二製油の社会的責任と断言してよいかと思います。今後のつくば研究開発センターの発信に期待します。

「不二製油CSRレポート2011」アンケート集計結果

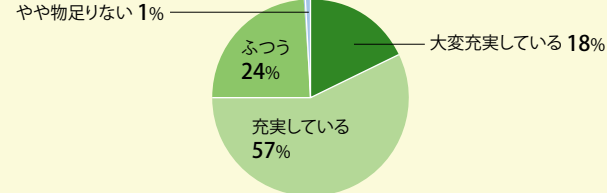
「不二製油CSRレポート2011」に同封したアンケートを通じ、社内外のステークホルダー369名の方々からさまざまなご意見・ご感想をいただきました。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後も皆様とのコミュニケーションを図りながら、より良いレポートづくりに活かしていきたいと考えています。

本レポートをお読みいただいた感想をお聞かせください。

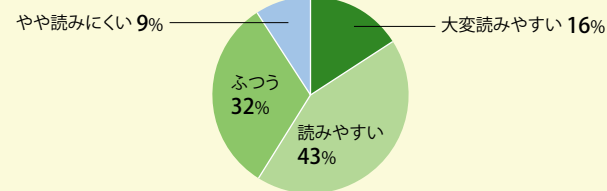
● わかりやすさ



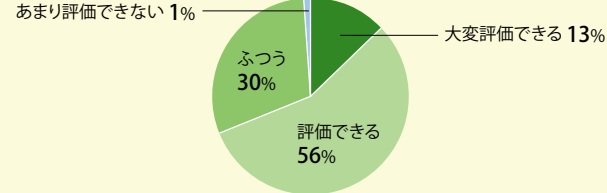
● 記載内容



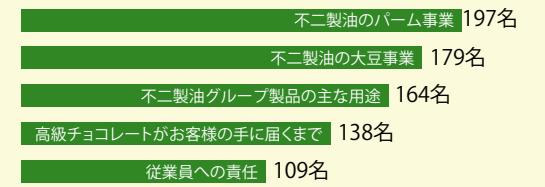
● 読みやすさ (レイアウト、文字の大きさ、写真、グラフ、表など)



● 当社のCSR活動について



本レポートで関心をもたれた項目（上位5位）



主なご意見・ご感想と2012年版での改善点

製品の主な用途とイラストでまとめているのがとてもわかりやすく親しみがもてる。

- ▶ 内容を今年版にリニューアルし、名称を「不二製油グループ製品マップ」と変えました。 **P06-07**

不二製油グループの今後の進む道が、理念とCSRの取り組みから大分理解できた。

- ▶ 今年も「不二製油グループのCSR」で、不二製油グループの目指す姿を明示しています。 **P20-21**

活動計画と結果の検証は実施できているのか。

- ▶ 活動計画に対する取り組み総括を掲載し、詳細を報告ページで紹介しています。 **P22-25** **P26-43**

不二製油の海外展開について記述が欲しい。

- ▶ 特集1、2では、東南アジア統括会社とインドネシアの海外グループ会社をクローズアップして紹介しています。 **P10-17**

原料に対する不二製油の取り組み姿勢に期待したい。

- ▶ 特集2「カカオ農園視察」、お客様への責任「サステナブルな調達への取り組み」で、カカオとパームに対する取り組みを紹介しています。 **P16-17** **P26**

第三者意見を受けて

前年に引き続き三品先生から、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今回ご指摘をいただいている「主要原料の供給の確保」「主要原料のクリーン度の向上」につきましては、継続的に取り組んでいる課題であり、今年策定の「CSR調達ガイドライン」に基づき、状況の把握をより一層進めるとともに、主要取引先とのコミュニケーションをさらに強化し取り組んでまいります。また、「油脂に関する知識の社会への浸透」につきましては、社会がわたしたちに期待している役割をよく認識し、ステークホルダーとの対話を重視し取り組んでまいります。

CSR推進室

二つとない、をつくる。



お問い合わせ先

不二製油株式会社 CSR 推進室

〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町 1 番地

TEL 072-463-1295 FAX 072-463-1659

e-mail csr@so.fujioil.co.jp



この印刷物は環境に考慮し、ベジタブルインキ・水なしオフセット印刷で制作しています。